

2009 AIDS文化フォーラム in よこはま

他人ごと?!



第16回報告書

開催：2009年8月7日（金）～9日（日）

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会

他人ごと?!

プログラム一覧	・・・P4
1. 開会式/オープニング企画/特別出演:松阪市長 山中光茂	・・・P6
2. 参加団体発表プログラム	
・当事者の視点から	・・・P9
北山翔子+AIDS文化フォーラムin横浜運営員会、パトリック&紳也	
・「生きる」の視点から	・・・P11
洪久夫、チームSAKURAYA、古川潤哉(浄土真宗本願寺派)、 矢吹貞人助祭(カトリックさいたま教区)、石田透牧師(日本基督教団原宿教会)、 大下大圓住職(高野山真言宗飛騨千光寺)、水谷修、岩室紳也	
・「セクシュアリティ」の視点から	・・・P19
南定四郎、加藤慶、石川大我、かながわレインボーセンターSHIP、 エイズ予防のための戦略研究 ～MSM首都圏グループ～	
・「伝える」の視点から	・・・P22
遠見才希子(聖マリアンナ医科大学5年)、高校生エイズフォーラムKANAGAWA、 てのひら～人身売買に立ち向かう会、薬害エイズを考える山の手の会、 NGO-労働組合国際協働フォーラム HIV/エイズ感染症グループ、 高橋幸子(埼玉医科大学産婦人科)、上村茂仁(ウイメンズクリニック・かみむら)、 エイズを伝えるネットワーク(TENCAI)、AIDS文化フォーラムボランティアOB有志、 特定非営利活動法人エンパワメントかながわ、岡島龍彦(H.I.Voice Act)、 安藤晴敏(神奈川県立百合丘高校校長)、鶴岡尚志(東京都臨床検査技師会)、 PNY(性問題対策を考える保健師の会)、県立横浜平沼高校演劇部+H.I.Voice Act、 地域医療振興協会医師 岩室紳也、横浜YMCA ACT、性を語る会 北沢杏子、 横浜YMCA・かながわレッドリボンプラザ、財団法人エイズ予防財団、JOPINT HEART、 富岡順子(大和保健福祉事務所)、永江和江(三崎保健福祉事務所)、 HAATAS(シェア・エイズボランティアチーム)	
・「支える」の視点から	・・・P38
エイズを伝えるネットワーク(TENCAI)、PNY(性問題対策を考える保健師の会)、 ANFA日本エイズ産学予防協会	
・「医療」の視点から	・・・P41
エイズ予防財団、倉井華子(横浜市立市民病院感染症内科医師)、 AIDSネットワーク横浜、カスヤ歯科クリニック	
・「国際」の視点から	・・・P43
Friends of God's Golden Acre Japan、横浜YMCA・かながわレッドリボンプラザ、 ニバルレキレ事務局	
3. 展示プログラム	・・・P47
横浜AIDS市民活動センター、カリタスジャパンHIV/AIDSデスク、ABCD in NARA、 ATAC in NARA、アーニ出版・性を語る会、アジアの女性と子どもネットワーク、 かながわレッドリボンプラザ、希望の家を支える会、Friends of God's Golden Acre Japan、 AIDSカスタネット倶楽部、株式会社ケーシーズ、てのひら～人身売買に立ち向かう会、 チョークディーの会、神奈川県立舞岡高等学校茶道部、ユニセフ支援市民団体ふれきしぶる、 神奈川県保健福祉部健康増進課、特定非営利活動法人日本ハビタット協会、 (財)日本ユニセフ協会神奈川県支部、特定非営利活動法人NGOアフリカ友の会、	
4. フォーラム全体集計表	・・・P57



● AIDS文化フォーラムin横浜とは？

1994年、横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手で市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な活動を行うNGO、NPO、学生、PWA/H、行政、個人が集まり、発表・展示・交流を行っています。たくさんの方々の温かい想い・ご支援により、「手弁当」の市民フォーラムも今年で16年目を迎えました。

● 「文化」の2文字

なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシュアリティ、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育・・・私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く結びついているのです。

● 報告書作成にあたって

フォーラム3日間の熱気を伝えたい！そんな思いから、報告書には来場者の声や会場の様子を伝える写真をふんだんに取り入れています。また、フォーラムでの出会いをきっかけに、それぞれの団体や個人がつながりを深め、活動が広がっていくという願いを込めて各団体の連絡先を掲載しています。この報告書を手にとって下さる一人ひとりが、それぞれの目的にあわせ、活用して頂ければ幸いです。



AIDS文化フォーラム in よこはま

テーマ: ^{ひと}他人こと?!

※入場無料 ※本プログラムに上乗せの、フタバシステム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがああります。
 (都合によりプログラムが変更になることがあります。最新の情報はその都度、ホームページ<http://www.yokohamaaids.org/AIDS/>にてご確認ください) 2009年8月6日現在
 PEER えんみちゃんからのメッセージ では遠見才希子さんによる心に響くヒアエデュケーションのライブが DVD 上映があります。(405 号室: 12:20~12:50 15:20~15:50)

時間	10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00
会場	フタバシステム企業(ホーク)		
形式	開会式 HIV/AIDSが他人ごとだった私たち ~当事者も、医療関係者も~ HIVのこと、エイズのこと、 知ってほめて 「自分とは関係のないこと」 「まさか自分の経験するなんて・・・」 経験によってHIV感染がなかった人も 知る人から感染した人も	押井くわん HIV ~HIV感染が始まってから12年~ (北山明子) 保健師であり、知識もありながらHIVに感染。この事実を深く と語る中から、聞き手の一人ひとりから何かを感じてもらえれば 幸いです。 PEER えんみちゃん DVD どうして? 性・エイズ教育 ~行動面による感染予防の紹介~ (三浦保雄 前職 事務所主任(大和製菓部) 現職 事務担当(神奈川) 中学・高校への保健所の協力を紹介することで、若者に性感 伝達・エイズについて伝えるノウハウを共有します。 その後で振り返る1980年代のAIDSキャンペーン (北沢香子 性学部長 友へ出版) 北沢香子が制作した映像を再編集。訪れた家庭、同性愛者、 エイズ感染問題。今、なぜ冷めてしまったのかも検証します。 アフリカとエイズ——「福井・アフリカ」のそと (Friends of Gaido (Golden Acre Japan)) 南アフリカのエイズの現状や多文化理解を楽しく学ぶワーク ショップ。等身大のアフリカを知るための心算。伝えます。 ゲートDV ~どうなってるの?10代の恋愛 (NPO 若人コンプライメンツ)が中心 10代の子どもの間でおこなわれる恋愛を対照に、ゲートDV (恋人間 の暴力) について、その予防と対応策を考えるワークショップ。	検査しつづけて、感染予防のために~ 「ゲイ・バイセクシュアル男性性行為」のそのアブロード エイズ予防のための基礎研究—MSM 首脳陣グループ— 佐藤七光 (Rainbow Ring 代表(佐藤)) 生島 剛 (エイズ研究所(佐藤)) 若原直太 (エイズ研究所(佐藤)) MSM 首脳陣 G—は MSM が検査しやすくなる体制作りを取り組 み、その内容を紹介します。 特別プログラム アフリカで学んだ「命の幸せ」ということ ~ケニアにおけるHIV/AIDSプロジェクトに関わった中へ 山中光茂 (佐藤)が中心 山中光茂(佐藤)市長の視点となった、アフリカ・ケニアで の活動の中で感じた「本当の幸せ」とは何かについ て、会場と意見交換します。 職場におけるHIV/AIDS (労働組合(佐藤) 前職 アーサー (HIVエイズ研究グループ)が中心) 福井県立大学などのワークを通して、職場におけるHIV /AIDSによる感染予防や感染を考えた。 佐藤に勝つために生きる—アフリカ(佐藤)のHIV ~患者と医療の関係性を通じて~ (トビヨウク及田)が中心 HIVに感染してもなおポジティブに生きるパトリックと 主治医であり友人でもある若原直太(佐藤)の、患者と医師 という関係性を考えた。「生きる」を考えるトーク。 企業の社会的責任とHIV/AIDS問題 (佐藤) (CANPA 日本エイズ学会(佐藤)が中心) HIV/AIDS 問題に取り組む企業の地道な活動、社会人および 次世代育成のための性教育等を目的とした活動を紹介。
8月7日金			
301 (00)	知識があってもHIVに感染します。 他人ごと意識が蔓延しています。 どうしてHIV/AIDSは他人ごとになってしま ったのでしょうか。 そして感染してしまっただけにどうすればいい のでしょうか。 みんなと一緒に考えてみませんか。		
304 (00)			
305 (00)			
403 (00)			
ネットの〜エンゲージ〜 8月7日(金) 18:15~19:15 301号室			

時間	10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00
会場			
形式	開会式 宗教とエイズを考えた Part4 安大直人助(カトリック) さいたま教区 石田直樹(日本基督教団) 聖地 古川順次(浄土真宗本願寺派) 天下大福(浄土真宗本願寺派) 千光寺 エイズが「命」「生」「死」「性」 どう向き合うかを「宗教」という切り口 で考えます。 Life Education ~心に響く性教育文~ 世帯主からのメッセージ (遠見才希子) わたし自身が中学生の時に読んだかったメッ ッセージを等身大で語ります。全国150超の講 演での出会いや看護婦人科実習での出会いも。 映画「マンマ・ミーア」~初めての恋は踏み出して ~ (佐藤)が中心(佐藤)が中心 海外でボランティア活動がしたい! という熱 い声から第一歩を踏み出し、タイ・エイズ 発見センターや児童保健局などでボランテ ィア活動に従事してきた若年たち。現地の エピソード、情報誌の現状、そしてこれか ら・・・それぞれの想いを伝えます。	特別企画: 夜間交流会 ※ 事前申込制 (水谷)	相見 先生・ 前職・ 国語部部長(大和製菓)が中心 水谷 先生 天下大福 (前職) 聖地(浄土真宗本願寺派) 若原直太 (エイズ研究所(佐藤)) いま、若者たちは何に直面しているのでしょうか。開会 式こそ、性に関わる大人たちが若者に送るメール。 PEER えんみちゃん DVD 検査しつづけて、感染予防のために~ ~性的マイノリティ(若年世代)のコミュニティ 横浜国立大学(佐藤)が中心(佐藤)が中心(佐藤) 若原直太 (エイズ研究所(佐藤))が中心(佐藤) 佐藤七光 (Rainbow Ring 代表(佐藤))が中心(佐藤) 佐藤 剛 (エイズ研究所(佐藤))が中心(佐藤) 若原直太 (エイズ研究所(佐藤))が中心(佐藤) HIV/AIDS 問題に取り組む企業の地道な活動、社会人および 次世代育成のための性教育等を目的とした活動を紹介。
8月8日土			
301 (00)	エイズ感染の最新事情 (横浜国立大学(佐藤)が中心(佐藤)が中心) 医療現場における HIV/AIDS 診療と支援の最 新事情を、数多くの患者さんの経験をされて いる立場から紹介します。	AIDSの感染経路の最新 立川夏生先生 横浜市立市立保健福祉局(佐藤) (AIDS ネットワーク横浜) 感染について聞きたいけれど、今の現状である、 性感染症であるエイズは? エイズの未来は? 相談所と原居人ゲート 親子の連携プログラム (MOENT HEART) コミュニケーションスキルを高めるために親と原居人ゲ ートを用いた親子の教育プログラムを行います。	相見先生・ 前職・ 国語部部長(大和製菓)が中心 水谷 先生 天下大福 (前職) 聖地(浄土真宗本願寺派) 若原直太 (エイズ研究所(佐藤))が中心(佐藤) 佐藤七光 (Rainbow Ring 代表(佐藤))が中心(佐藤) 佐藤 剛 (エイズ研究所(佐藤))が中心(佐藤) 若原直太 (エイズ研究所(佐藤))が中心(佐藤) HIV/AIDS 問題に取り組む企業の地道な活動、社会人および 次世代育成のための性教育等を目的とした活動を紹介。
305 (00)	看護現場と作る AIDS 出前授業 (前職)が中心 神奈川や千葉で、看護現場の窓口となって実 施した AIDS 出前授業の事例と、実践を振り返 るワークショップ	10代の子どもの間でおこなわれる恋愛を対照に、ゲートDV (恋人間 の暴力) について、その予防と対応策を考えるワークショップ。 10代の子どもの間でおこなわれる恋愛を対照に、ゲートDV (恋人間 の暴力) について、その予防と対応策を考えるワークショップ。 10代の子どもの間でおこなわれる恋愛を対照に、ゲートDV (恋人間 の暴力) について、その予防と対応策を考えるワークショップ。	相見先生・ 前職・ 国語部部長(大和製菓)が中心 水谷 先生 天下大福 (前職) 聖地(浄土真宗本願寺派) 若原直太 (エイズ研究所(佐藤))が中心(佐藤) 佐藤七光 (Rainbow Ring 代表(佐藤))が中心(佐藤) 佐藤 剛 (エイズ研究所(佐藤))が中心(佐藤) 若原直太 (エイズ研究所(佐藤))が中心(佐藤) HIV/AIDS 問題に取り組む企業の地道な活動、社会人および 次世代育成のための性教育等を目的とした活動を紹介。

部屋		10:00～12:00	13:00～15:00	16:00～18:00
8月8日・土	306 (30)	同性愛の社会学 (南定四郎)	南アフリカ共和国でエイズとともに生きる (ニバルレキレ事務局) サッカーワールドカップが開催される南アフリカ共和国でいまだPWAの生活は困難。ニバルレキレではヨハネスバーク周辺のタウンシップやスラムでの6年の活動報告と南アのエイズ問題をどのように理解したらよいかを話し合います。	
	403 (60)	高校生エイズフォーラム KANAGAWA (高校生エイズフォーラム KANAGAWA) 高校生エイズフォーラム KANAGAWA でこれまで実践してきた高校生による HIV/AIDS 予防啓発活動と作成した教材の発表。	AIDS 予防のための小中高の「生きるための心の教育(性教育)」(PNY(Peer Net Work Yamagata)) (性問題対策を考える保健師の会) 家庭・学校・地域で取り組む「生きるための心の教育」と AIDS 予防をご紹介します、皆さんと今後の活用について検討します。	今新たに AIDS 対策における保健師の役割を検討しよう! (PNY(Peer Net Work Yamagata)) (性問題対策を考える保健師の会) AIDS 対策について保健行政はどう進めるべきか、併せて挙げながら、参加者の方々と保健師の横のつながりの強化等も含め検討していきます。
	405 (30)		「死」から考える、私の「生」と「性」 (渋谷久夫 & 吉川潤哉・浄土真宗本願寺派僧侶) 「死」は他人事? 「生」や「性」を語るには「死」もはずせない! PWA/HIV 済久夫の素朴な疑問、真宗僧侶吉川潤哉と「死」から「生」を、「性」を考え、語りましょう。「ライフライン図」作成でそれぞれのいのちと向き合いながら…いろいろな疑問もここでなら尋ねられるかも!	わたしたちが受けたい AIDS 性の授業 (エイズを伝えるネットワーク (TENCAI)) エイズを伝えるネットワーク (TENCAI) の夏休み学生ボランティアが、現役の中学・高校生として受けてみたい性感染症やエイズの授業を企画・提案します。いったい何か飛び出すのか・・・乞うご期待!
ネットワーキングパーティー: 8月8日(土) 18:30～ 中華料理屋 迎珍 内容: 中華料理を食べながら交流 参加費: 成人 4,000 円 未成年 3,000 円 定員: 55 名 (チケットは 8 月 7 日より会場内事務局で販売)				
部屋		10:00～12:00	13:00～15:00	15:15～16:30
8月9日・日	ホール	空とコムローイ 映画上映 ～タイ、コンディップ村の子どもたち～ (かながわレッドリボンプラザ)	空とコムローイ 映画上映 & 三浦孝子監督のトーク ～タイ、コンディップ村の子どもたち～ (かながわレッドリボンプラザ) 8年間をかけてタイ最北端の町・メーサイでエイズ孤児とその家族を追いつづけたドキュメンタリー映画の上映と、そこに込められたメッセージについて、三浦孝子監督自ら話します。	ホール 全体会・閉会式 他人ごと?! から 自分ごとへ 県立横浜平沼高校交際部による 創設初場
	301 (90)	携帯電話相談にみる 若者の性行動の現状とデートDV (ウィメンズクリニック・かみむら上村茂仁) 岡山市のちっちゃい先生に毎日迷われてくる相談メールから見える若者の性の現状とは、恋をしてもしなくても、是非、若いみんなに聞いてほしい話!	あなたにしかできないエイズ・性教育とは (地域医療振興協会 岩室鍾也) まねごとのエイズ教育は開き手のところに響きません。あなたにしかできないエイズ・性教育を学んでみませんか。	
	303 (30)	HIV/AIDS の歯科治療の実際 (カサヤ歯科クリニック 糟谷潤) HIV/AIDS の患者さんにとって口腔ケアは不可欠。歯科のわかりづいけを持つことの大切さをトータルヘルスケアの視点から考えてみませんか。	ハマッコ弁護士が語る女性と子どもの SOS (てのひら～人身売買に立ち向かう会) DV や児童虐待等から逃がれてきた女性や子どもへの支援を東洋子弁護士にお話頂き、ワークショップを行います。	PWA・PWA・PEWHA=People Living with HIV/AIDS
	304 (60)	教師と臨床検査技師のコラボによるエイズ啓発の実践 (神奈川県立百合高校校長 安藤清敏) (東京都臨床検査技師会) 東京都臨床検査技師会のエイズ啓発の取り組み及び、検査技師としての視点に立った啓発活動の紹介。学校現場の視点から、また、講演を行っている側から、学校に講師として招かれたときの注意及び、学校としてどのように講師を選び、目的にあった講演会を開催するかを示し、問題提起をする。	援助職のための AIDS と性のワークショップ入門講座 (エイズを伝えるネットワーク (TENCAI)) HIV/AIDS や性の問題の理解を深め、援助のための意識の持ち方と基本スキルの獲得を目標とした入門講座。教育、心理、看護、保健、福祉分野で、これからこの問題に関わっていく方を対象にしていますが、一般の方も参加できます。この講座はワークショップ形式で行います。	
	305 (60)	いい加減に生きる 癒し癒されるスピリチュアルケアとは 大下大圓 (高野山真言宗醍醐千光寺住持) スピリチュアルケアを医療・福祉・教育に活かす、「養生」で生きなおす仏教の心と知恵に触れてみませんか。	成人の主張 —様々な立場から HIV/AIDS を考える— (チーム SAKURAYA) HIV 感染当事者、学校教諭、医師、看護学校教員らによる各人の主張を元に、多岐にわたるトークやディスカッションを行います。	展示プログラム出展団体 ◇AIDS カスタネット倶楽部 ◇ABCD in NARA ◇ATAC in NARA ◇NGO アフリカ友の会 ◇Friends of God's Golden Acre Japan ◇アジアの女性と子どもネットワーク ◇性を語る会 (アーニ出版) ◇神奈川県保健福祉部健康増進課 ◇かながわレッドリボンプラザ ◇株式会社ケーシーズ ◇カリタスジャパン HIV/AIDS デスク ◇希望の家を支える会 ◇チョークディーの会 ◇てのひら～人身売買に立ち向かう会 ◇日本ハビタット協会 ◇(財)日本ユニセフ協会神奈川県支部 ◇ふれきしぶる ◇横浜 AIDS 市民活動センター
	306 (30)	タイで学んだ HIV/AIDS (国際協力研究会 PEACE) タイの AIDS ホスピスで行った海外研修について、私たち看護学生の視点からの学びを発表します。	性感染症 タイで学んだ HIV/AIDS (国際協力研究会 PEACE) タイの AIDS ホスピスで行った海外研修について、私たち看護学生の視点からの学びを発表します。	
	403 (60)	元気な赤ちゃんを、そして健やかな発育を～HIV 感染と妊娠～(厚生労働科学研究 HIV 感染妊婦とその出生児の調査・解析および診療・支援体制の整備に関する総合的研究班) わが国の HIV 感染妊婦の現状と生まれてくる赤ちゃんのケア、その後の発達・発育支援などについて、研究班からのメッセージ。	高校生と作る身近さへのコミュニケーション (県立横浜平沼高交際部・H.I.Voice Act) 演劇性生徒と一緒に、能登ワークショップと意見交換で、「他人ごと」から「身近さ」へを体感します。	
	406 (30)	『世界がもし 100 人の村だったら』 HIV・AIDS パージョン (YMCAACT) 世界を 100 人の村に例えたら? ワークショップを交えながら HIV/AIDS の基礎知識、世界の感染者等の数を分かり易く伝え、理解を深めていきます。	まずは話そう HIV ～ともに生きるために～ (AIDS 文化フォーラムボランティア OB 有志) HIV に対するイメージや思いを自由に話し合うことで、HIV をもっと身近に考えます	

特別協力: 一服のお茶から (神奈川県立鶴岡高等学校 茶道部): 展示場 (7日(金) 8日(土) 休憩時間にお立ち寄りください。お待ちしております。)

開会式

<組織委員長あいさつ>

今年のテーマは、「他人ごと?!」です。日本で初めてHIV/AIDSが見つかってから25年になりますが、感染が拡大が続いている背景には、HIV/AIDSについての情報は溢れ、学校でも学んでいるにも関わらず、自分には関係がないと「他人ごと」と思っている人が多いことがあります。

AIDS文化フォーラムが16年間目指してきた「文化」とは、どんな文化だったのでしょうか。それは、「他人ごと」意識を「自分ごと」に変えていこうとする文化だったのではないかと思います。私にとってHIV/AIDSをはじめて聞いたときには「他人ごと」だったことが、AIDS文化フォーラムに参加することを通して、少しずつ「他人ごと」から「自分ごと」に変化し、自分の問題となってきたことを思います。「他人ごと」から「自分ごと」には、簡単には変化しませんが、AIDS文化フォーラムに参加する度に、新たな学び、新たな出会い、新たな気づきがあります。皆さんも、今まで自分に興味がなかったテーマにも、ぜひ関心を持ってみて下さい。そこから新しい世界が広がります。

文化は長い年月をかけて築かれていきますが、このAIDS文化フォーラムを通してHIV/AIDSが「他人ごと」から「自分ごと」へ、他者の問題、苦しみ、悩み、痛み、喜びが、自分の問題、苦しみ、悩み、痛み、喜びに変わる文化を皆さんと一緒に形成していきたいと願っています。そして、共に生きる社会的な連帯を生み出すことができる機会となりますよう願っています。

組織委員長 田口努



横浜YMCA

「横浜青年」2009年9月号



▲フォーラムの開会式で挨拶する田口総理事

市民の立場から幅広くエイズ、HIVについて考えるAIDS文化フォーラム(同組織委員会主催、横浜YMCA事務局)が、八月七日(九月日)にかながわ県民センター(横浜市西区)で開催された。今年で十六回目を迎えたフォーラムでは、「他人ごと?!」をテーマに教育、国際、患者、感染者への支援や予防、医療など幅広い分野で三日間で五十五の講座と十八団体による展示が行われ、全国から三千五百四十七人が参加した。

**多くの高校生、大学生も参加
第十六回AIDS文化フォーラム**

開会式では、組織委員長を務める横浜YMCAの田口努総理事が挨拶し、「多様性を持つこのフォーラムで世界を広げ、他者の問題を自分の問題として考える機会としてください」と述べた。

年々、若者が主体となって自分たちの視点でエイズやHIV、性教育について取り上げるプログラムが増加しているが、今年も「高校生エイズフォーラムカナガワ」や、大学のサークル、ユースグループなどが多く参加した。閉会式では、神奈川県立横浜平沼高校演劇部が朗読を行い、HIV・エイズが他人ごとから自分のこととして変わっていく様子を参加者と共有した。

飯島愛さんに感謝

AIDS文化フォーラム in 横浜に2回ご協力いただいた飯島愛さんが亡くなりました。自ら積極的にエイズ検査を受けていることを通して「検査は大事だよ」と訴えたり、コンドームの装着法を自らが実践してみたり、「岩室先生、今時の若者は内ポケット付きの上着なんか着ないよ」とズバリ指摘したりと、とかく人が避けがちな「性」に関する話題をズバリ発言してくださる、数少ないタレント(才能)をお持ちでした。飯島愛さん、本当にありがとうございました。





◆オープニング HIV/AIDSが他人ごとだった私たち ～当事者も、医療関係者も～

HIVのこと、エイズのこと、知ってはいても「自分とは関係のないこと」「まさか自分が感染するなんて・・・」と多くの人は「他人ごと」と思っていないでしょうか。

北山翔子さん：保健師としてHIV/AIDSの知識がありながら恋人から感染。「100人に1人感染」という情報は「100人中99人は感染していない」と自分だけは、彼だけは大丈夫だと他人ごととっていました。

石田心さん：妊娠時に初めて自分自身がHIVに感染していることを知りました。まさかTattooで感染するとは思っていませんでした。学校で習った知識と言えば「バケツ一杯の唾液を飲まなければ感染しない」といった他人ごとのような情報でした。お子さんが感染することなく元気に生まれてきた今、お子さんのおかげで早く感染に気付くことができたとお子さんに感謝しつつ、子育てに追われる毎日を過ごしています。

岩室紳也医師の話聞いていた若者がMDMAを使い「エイズなんて関係ない」となってコンドームなしでHIVに感染。水谷修さんと親交がある岩室医師も薬物は他人ごとでした。

来場者感想：

MDMA



- HIVに感染してる人の話を聞いてよかったです。自分も実際、他人ごとだと思っていたから。これからは自分の身体は自分で守ろうと思った。予防をしっかりする。(神奈川県 10代 学生)
- 実際にHIVに感染している人の話を聞く事ができて良かった。今まで、HIVの事を聞いても、違う世界のもの、自分とはあまり関係の無いものという認識があったが、今回身近なものに感じる事が出来た。(神奈川県 20代 栄養士)
- HIV/AIDSについては、大学で勉強しているのと自分自身他人ごとのように思えず勉強してきたが、当事者の方と会うのは初めてでどんな人かと思ったけど、私たちと全然変わらないと思いました。(静岡県 20代 学生)
- 飯島愛さんのエピソードに少しウルッと来ました。残念さを共有できて良かったです。「バケツ一杯分の唾液の話、私も習いましたが、未だに長野県では聞く事がありました。習ったことが再現されているだけで、これは保健医療行政ではなく教育分野の問題のような気がします。「当院では、性感染者の治療や対応は致しません」と貼り紙をしている産婦人科が長野にあります、再教育が必要ですね。(長野県 20代 福祉)
- ずっと自分の関わる子どもたちに、10年後の望んだ妊婦健診でHIVに感染している事について知ることを想像しながら、今の性に対する行動、命の大切さについて考えて欲しいとメッセージを送ってきた。でも、いくら私が語るよりも、当事者との出会いのほうが子ども達にはとてもいい機会になると痛感してしまう。だから、やはり みんながつながり、関わって共に生きることが大切だと思います。(神奈川県 30代 保健医療教育)
- 妊娠9ヶ月です。血液検査の結果を家に戻ってみてみようと思います。お話を聞いてよかったです。今日聞いたこと、夫婦で話してみようとおもいます。ありがとうございました。(神奈川県 30代 教育)
- 何故、他人ごとと考えてしまうのか考えた。(千葉県 30代 保健医療)
- 石田さん、北山さん、貴重なお話ありがとうございました。自分も「他人ごとではないんだよ」と学校で伝えつつ、自分の身近にある事としては受け止めきれていないことを再認識しました。今、結婚すること、出産する事を考えているので、石田さんの話をとても身近に感じました。検査受けます。(千葉県 30代 教育)
- 他人ごとをなんとかするのはむずかしい・・・という本音が気持ちよかったです。結局、経験、キッカケ、地道なことをコツコツ・・・だと思います。(東京都 40代 教育)
- 「他人ごとじゃない」と思うのと「自分のこと」として行動する間に何か壁じゃないけど ポヨヨ〜ンとした通り抜けられるか抜けられないか・・・みたいなものがあるような気がしました。石田さん、しなやかな強さがうらやましい。いいママになってください。石田さんのご両親だから石田さんも話せたんだと思います。世の中そういう親ばかりでない・・・と思うことがあります。(仕事柄)(新潟県 40代 教育)
- 心さん、翔子さんのお話、とっても心うたれました。そうか、{恋人とのセックス}と{いれずみ}での感染かあ。{血液製剤}も言いやすいよね。公にできない理由での感染とは、差別されるだろうなあ。明るく、しかも率直に話すお二人に感動しました。印刷したものを読むよりも比較にならないくらいのメッセージ性があります。こうしたお話を聞く機会が増えることが、普及啓発の大きな力となると思います。(神奈川県 50代 教育)



◆アフリカで感じた「本当の幸せ」ということ ～ケニアにおけるHIV/AIDSプロジェクトに携わる中で～

山中光茂 (松阪市 市長)

<http://www.city.matsusaka.mie.jp/hisho/index.htm>

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：市長が過去に行っていた「アフリカでのエイズプロジェクト」の話とともに、「幸せの価値観」について意見を交わしました。また、そうした現場の活動から「なぜ政治活動に向かったのか」や、いま市長としてできることの思いを語っていただきました。

講演を終えた市長の感想：

- ・フォーラムに参加している方々は、本当に熱い思いを持っている方々ばかりで、私自身も改めてなんだか熱い気持ちが込みあがってくる気がしました。
- ・「幸せ」という価値観を持てるような地域づくりをしたいという原点を話しながら自分自身でも確認していました。

来場者感想：

- 市長さんから、どのような方が参加されているのか、とご質問を受けたので…看護大学の学生で卒論でケニアのエイズについて書かせて頂いており、担当教官宛に届いたダイレクトメールより本日のフォーラムについて知り、東京より参加させて頂きました。本日は貴重なお話をありがとうございました。(東京都 20代 学生)
- お金を渡す等の直接的な支援をしない、ということについて、それができる理念の高さが素晴らしいと思いました。現在、障害者の自立生活支援、就労支援をしている者ですが、サービスを出しすぎること、甘えてしまう方も多く、対応に苦慮しています。日本で言えば、生活保護や障害年金制度も難しいものだと感じています。松阪の障害者にも目を向けて下さい。(長野県 20代 その他 福祉)
- 山中市長の「幸せ」の定義が今までの経験を通してよくわかり、色々考えさせられました。まだまだ色々聞きたかったです。(東京都 30代 保健医療)
- アフリカの現状、初めて知る・聞くことばかりで驚きました。この話を聞くことができ、ますます幸福感がupしました。(広島県 30代)
- 幸せを感じる心が、幸せを創り出している 言葉が印象に残りました。他人の痛みを他人ごとでなく、自分のこととして感じることの大切さを教えて頂きました。AIDSの問題(?)だけでなく、生活全体の中の一部として、考えていくことが大切だと思いました。大変よい内容でした。ありがとうございました。(広島県 40代 保健医療)
- 「エイズを広げない うつさないようにする」このことだけを… 誰もが自分の分野や生活に直結した部分には、興味をもちやすい… うーん なかなかいいことを、いっぱいもらいました。(神奈川県 50代 教育)
- 熱心に語ってくださって、よかったです。いろいろ知ることができました。アフリカのことを少し近くなりました。(50代 保健医療)
- 現地アフリカの生々しい現実の話を知りました! どんな現実の中でも生きていかなければならない人の“懸命さ”が伝わりました。何度も目がウルウルしました… 地域のために何とかしようとする人とつながっていく事が大切なのだ、と感じました。現地の人々が、現地で生きていける手段を確保できるような支援ができればいいと思います。(千葉県 60代以上、NPO)
- 途中参加したのが残念なくらい初めから聞きたかったです。1%傷ついて人がいるとすると、その1%にいつ自分が入るかわからないという部分“他者の痛み”を理解するというお話に共感しました。

幸せを感じる心が、
幸せを創り出している



◆神様がくれたHIV～HIV感染がわかってから12年

主催：北山翔子+AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：恋人からHIVに感染した私。HIVに感染している自分を語ることを通して聴衆のみなさんに何かを感じてもらえればと思って語り続けています。

来場者感想：

- HIVに感染して、とても大変だと思いましたがまわりの環境(人の言葉)で充分その人がいやされることがわかりました。HIVにかかったときは、絶望的というか死にたくなるのは、きっとほとんどの人が思うことだと思いますが、生きていれば良いことが絶対あるのでささえてくれるまわりの人や、自分の意思を強くもつことが大切なんだと思いました。(神奈川県 10代 学生)
- はじめてお聞きしました。HIVの感染予防→相手を愛して関係が深くなるほど予防が難しくなる…。予防について伝えることは簡単だけど、なかなか難しいな～とあらためて感じました。(神奈川県 20代 保健医療)
- 今まで、エイズの知識を教えてもらう機会はあったが、実際にHIVに感染した人の話を聞いて、違う視点からエイズと言うものを知る事ができてよかった。お話を聞いていて、とても強い人だなと思った。これからも講演活動等がんばって下さい。(神奈川県 20代 栄養士)
- 予防に関しては、難しい病気だなと改めて思った。そこには気持ち(好き、愛している)が大きく関与しているから。その部分を上回る位の“予防意識”(コンドーム使用等)にはどうしたらいいのかなと考えます。(東京都 20代 保健医療)
- 同じ女性として痛いほど気持ちがわかりました。乳がんで亡くなった川村かおりさんもそうですが、自分の後悔を他の人にさせたくない活動している方はすごいと思う。その人の気持ちを無駄にしないように、これからの人生に生かします。(神奈川県 30代 保健医療)
- 何回かうかがったお話ですが、以前よりも肩の力がぬけて、より良い講演になったなあ～と感じました(上から目線でゴメンなさい)。HIVと寄り添っていく事は単に医学に留まらず、恋愛だったり、仕事だったり、対人関係だったり、実に様々な要因に左右されるものなんですね。新規PHAの半数以上は“特定パートナーから感染し”発症者においては異性間感染が同性間を上回る時代になってきたからこそ、北山さんのメッセージは これまで以上に意味を持つことでしょう。ありがとうございました。(東京都 40代 専門相談員)
- HIVだけでなく、北山さんの生きる力に感動しました。日々生きる、大切に生きる、感謝することの生きかたを私もしていきたいと思います。(東京都 40代 教育)
- 北山さんのお話を聞いて“すべてがうまくいっている”そう感じました。お母さんが強くタンザニアに行く事を反対されたのは、きっとその時この状況をお母さんが覚悟された瞬間だったのではないかなと思いました。私は誰かのために役に立てる生き方ができる それが幸せな生き方じゃないかなと思っています。しあわせはその人の思い方、どんな状況でも、そこに感謝できる人が本当にしあわせな人だと思います。北山さんがとても明るく見えたのは、いろんな事に固執しないで生きてみえるからだな と思いました。メッセージがしっかりみんなに届いていると思います。今日はありがとうございました。(岐阜県 40代 教育)
- 中学生から「なぜ、HIVが差別されるの？」という質問を受け、HIVは差別されるものと教えられていたということ。「差別、偏見をなくそう！」というスローガン、このスローガンをこれからは考えていこうと思いました。人と人とのつながりの大切さ、自分を認めてくれている一言が、つらい時、苦しい時に 乗り越えていく力になったという北山さんのお話。私もそんな一言を、まわりの人に伝えていけたら・・・と思います。(岐阜県 30代 その他)

連絡先：北山翔子講演マネージャー：岩室紳也 <http://iwamuro.jp> (HPから連絡ください)

近日中に改版予定

日々生きる、
大切に生きる、
感謝する



◆若者に聞いて欲しい「生きる」トーク！ Positive with HIV! ～患者と医者の関係性を超えて～

主催：パトリック&紳也



内容：HIV positiveのパトリックと彼の主治医である岩室紳也医師が「生きる」をテーマに生徒に聞かせたいトークを再現しました。

来場者感想：

- すごく楽しい話ばかりで、本当に楽しかったです♡(茨城県 10代 学生)
- ポジティブになった人のリアルな話をおもしろおかしく聞けてよかったですと思います。(神奈川県 20代 保健医療)
- じぶんもMSMなので当事者の方の話がとても興味深かったです。(東京都 20代 保健医療)
- 初めてパトさんの話を聞きました。とてもびっくりしてとてもおもしろかったです。考え方がポジティブであることは、本当に本当に素敵だと思いました。ありがとうございました。(千葉県 20代 教育)
- パトリックの考え方がすごくポジティブでびっくりした。(元々の人格もあると思うけれど)日本人では死は悲しいことだけれど、当然のことと言っているのは簡単には出てこない発想だと思う。(埼玉県 20代 教育)
- すごくポジティブなパトちゃんの話が聞けて私も元気が出ました。HIV感染していても、なにもかわらないんですね。私の人生観もポジティブにしてもらいました。(山梨県 20代 保健医療)
- ありがとうございました。パトさん語録(?)大切にしたいです。来年も会いに来たいです。(神奈川県 30代 主婦)
- 感染した頃から現在に至るまで、どう思ったか どう感じたか、どう考えたか、ストレートに話していただいたので、身近にHIVについて感じることができました。お二人の掛け合いもとても楽しかったです。どうもありがとうございました。(神奈川県 30代)
- AIDS/HIVは違う事を知った。家に帰って調べます。お料理好きのパトリックさんが、マックを「それはそれで好き」と話しておられるところに、お人柄が出ていました。(東京都 30代 看護学生)
- 熱いものをたくさんいただきました。悩んでしっかり考え、私も自分の言葉を見つけていこうと思います。この場に参加できてよかった!!(熊本県 30代 保健医療)
- 楽しく学ばせていただきました。「生」「死」の話・父の言葉・アメリカの教育と日本の教育の話、よかった。(神奈川県 40代 教育)
- パトリック氏の話は、過去に何度か聞いたことがありますが 本当に「生きてる事に前向きで、生きてることを考えている」と「今を大事にされている」「体と話す」改めて感じました。「負けるまでは闘うよ」の言葉は良かったです。[生き方]を学ぶ時間になりました。いつも「生」「性」について考えます。それをどのように生徒たちに伝え死にいくかも考えます。本当にありがとうございました。(神奈川県 40代 養護教諭)
- 意識すると行動が変わると言う言葉は印象に残りました。(新潟県 40代 教育)
- 教員やっていると、教える伝える事の難しさ(制限、制約あるから)感じます。でも、授業の中で、考えさせる時間を必ず作ろうと思います。(新潟県 40代 教育)
- パトリックが元気で良かった と思いました。パトリックの顔を見るのは2年ぶりなので。今年も元気をもらいました。ありがとうございました。(北海道 50代 教育)

連絡先：岩室紳也 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15階
(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

Tel: 03-5210-2921 Fax: 03-5210-2924

紳也's HP: <http://iwamuro.jp/>からパトリックへの講演の申し込みができます

私の人生観も
ポジティブに

他人ごと？！

◆死から考える「生」と「性」

主催：古川 潤哉（浄土真宗本願寺派）

洪 久夫（ひさおの部屋サイト代表当事者）

内容：今回の発表は、人間が死んだ後どうなるのかまた、身寄りの無い人は一体どうなってしまうだろうか。そして、生きるについて一体どの様なものかなと思い、来場者には、生きるてから死ぬまでのプログラムを、個人個人に書いてもらいました。



来場者感想：

- 自分自身の死生感を見直す事が出来る良いきっかけになりました。（大阪府 20代 福祉）
- 最近、人の死に直面する機会が多くあったので、人の死というのが恐ろしくて不安すぎてライフラインを書いて自分の死の事を考えるのがすごく難しかったです。けど、こんな事を考える事もないので良い体験ができました。（大阪府 20代 フリーター）
- 楽しかったです。眠くなりませんでした。トークもそうですが、特にライフラインは他の人にもやらしてみたいと思いました。（神奈川県 10代 学生）

（お詫び）

来場者の感想がすべて良かったのですが、すべてを紹介することが出来ませんでした。

連絡先：ひさおの部屋サイト 代表者 洪(ホン)久夫

住所 〒164-0012 東京都中野区本町6-17-12 フローラ新中野202

Tel&Fax: 03-3384-0549

携帯 080-5512-1973 PC E-Mail: hon-hisao@w4.dion.ne.jp

携帯 E-Mail: hisao-97348080336@ezweb.ne.jp

URL: <http://www.k4.dion.ne.jp/~hisa1973/>

普段の意識も
変わりました

◆成人の主張

主催：チームSAKURAYA

内容：医師、学校教員、H I V感染者ら、多彩なパネラーを招き、自身の主張を発表しあう。それらについてトークセッション形式で語り合い、考えてゆく。また来場者とも積極的にやり取りを行う。

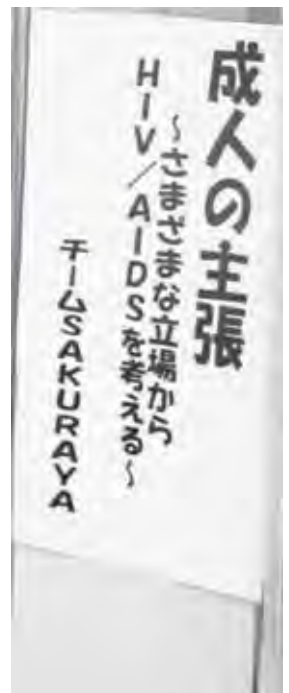
当日は少ない参加者ではあったが、各人の主張はここでしか聞けないもので、来場者に興味を持って聞いていただけたようだった。アンケートにはないがプログラム終了後「退屈にさせない」と来場者からも直に伺った。異色の顔合わせであるパネラー陣が、それぞれ個性を発揮した結果かも知れない。また、来年も聞きたいという声も複数寄せられた。

初顔合わせならではの緊張感があったものの、和やかなムードで終えることが出来た。

来場者感想：

- 色々な生のお話を聞く事が出来て、普段の意識も変わりました。共に生きる事、深く考えていきたいです（30代）
- 皆さんのお話はどれも興味深く、また楽しかったです。是非来年も開催してください！（40代 公務員）
- 今年は少し、参加者が少ない気が…（私の参加した所がたまたまか）でも、続けてください。来年も来ることを楽しみにしています！スタッフの皆さんありがとうございます

連絡先：E-mail: toy_toy_0906@yahoo.co.jp（桜屋伝衛門）



他人ごと？！

「宗教とエイズを考える」について考える

浄土真宗本願寺派 浄誓寺 僧侶 古川潤哉

「宗教とエイズを考える」の4回全てに出席させていただいたご縁で今回の内容と、初回(2006年)からの全体像について、私の立場からの考えや気づきをまとめてみました。

4回目を迎えた2009年

今年は、カトリック、プロテスタント、真言宗、浄土真宗と4派4名の宗教者の参加が実現し、岩室医師も含め幅広く賑やかなセッション。できるだけ偏らず、幅広く宗教の視点を取り入れるためには、宗教者、宗派が増えることは歓迎すべき事である。

ただ、教理もアプローチも各派異なる上、時間も限られているため、話題を深めることはなかなか困難であった。今回、初めてキリスト者、仏教者それぞれが複数となり、同系比較ができたのは期待通りだったと言える。岩室先生によるHIV/AIDSの現状プレゼンの後、それぞれ個人の立場、宗教者の視点を交えて発言。病としてのAIDS、性とAIDS、生きることとAIDSなど、総合的にいのちを捉えるトークセッションとなった。

大切なのは、キリスト教も仏教も、生きる上での「性」や「性行為」また、性感染症、その感染者を否定しない点。一般的に、聖書は同性愛を禁じ、戒律は性行為を禁止などのイメージから、宗教とAIDSや性感染症は相容れないと思われることが多いが、性を否定したり蔑んだりすることは、いのちを否定することと等しく、宗教が表現しているのは、自らの性欲、性生活を認めた上での「慎(つつし)み」と「相互尊重」の姿である。

宗教本来の究極的目標は「救い」であり、それぞれの誠(いまし)めは、救いを実感するため、全ての人が安心して生きていくために、「このような生き方、社会を目指そう」というガイドラインであって、守れない人を救いの対象から外すためのものではない。生き方の善し悪しを論じるものではなく、生きていく上での悩みや苦しみを受容し乗り越えて生きるためにこそ存在し、受け継がれてきたのが宗教。今回の会場でぼんやりとでもそのことが感じられていれば、発言者の一員として幸いであるが…。

初回からの成果と不足点

2006年からの開催で、8名の宗教者が登壇。神父、牧師、真言僧、禅僧、真宗僧と教派も年齢層も幅広いメンバーであり、一度も事前に内容のすりあわせをしたことが無いが、すべからず方向性が一致していたことで、私は安心したり、物足りなかつたりしている。一致していて安心したのは、「HIVポジティブだから救われない」とか、「同性愛者は救われない」とかそういうことは無く、救いが最終的には普遍であることを示せた点である。これは、各派の救いの本質が「自分自身のいのちの解決」であることの証明でもある。

逆に、一致していて物足りない、または勿体ないと思うのは「一人称の視点」まで到達しにくい点。宗派が違えば、信仰のスタイルや救いの論理も全く違うのだが、フォーラムでは、「キリスト教も仏教も結局目指すところは同じ」と見えてしまう辺り、結果的方向性の一致が逆に残念に思える。

公的イベントの場合、布教にならぬよう、また、比較で他派批判にならぬようとの配慮(遠慮)から、救いと信仰という核心が語りにくくなる。私の発言に限らず、背景としての信仰とその救いの解釈を省くため、「へー」とは思っても「なんで？」が残るはずだ。各派共に表面の事象を語って核心を外したようなもので特徴が無くなり、複数の宗教者が居る場合は非常に勿体ない。「テレビや講演会で見聞きする宗教(特に御利益系でないもの)には魅力がない。魅力がないのに信者が存在するのはなぜだろう?」。と思ったことはないだろうか。この違和感も、公共空間で見聞きできる宗教が、あくまで一般論的な理屈であり、目線は三人称、即ち「他人ごと」だから感じるもの。宗教とは、個人の信仰の柱となる教理として存在する。信仰抜きに三人称で捉える宗教は概念でしかなく、知識でしかない。知識としての宗教は、「自分のいのちの解決」に役立つものではない。少なくともここで登壇する宗教者は、それぞれ、いのちの問題を自分のこととして解決を試みる(または解決済みの)人であるので、宗派を背負う形ではなく、個々の信仰の魅力を語ることができれば、来場者も、より一人称に近い二人称でいのちを捉えることができるかもしれない。AIDS文化フォーラムにおける「宗教とエイズを考える」は、「エイズと諸宗教を通して、私のいのちを今考えよう」という一人称視点への転換のメッセージを発する力があるはずと今後の展開に期待している。



古川潤哉僧侶

「慎(つつし)み」
と
「相互尊重」



「AIDS文化フォーラム」でなぜ「宗教」か？

違和感を持つ人は多いようだが、私は、「AIDS文化フォーラム」だからこそ、「宗教」のセッションが持てるのだと断言したい。創設からYMCAが事務局を担当するこのフォーラムで、10年も宗教をテーマとしたセッションが無かったのは、先述の紳士の遠慮に他ならず、国内のHIV/AIDSに目を向ける仏教者が極端に少ないことで遠慮させてしまったのではと恥ずかしくすら思う(海外へのAIDS支援僧はやたらと多い)。

AIDS文化フォーラムが素晴らしいのは、何よりもまず市民フォーラムであること。そして「文化」という表現で、多様性を受容し差別や偏見を超える集まりであることが挙げられる。この多様性は無秩序ではなく、さまざまな視点やアプローチのセッションも、ボランティアも来場者も、真剣にHIV/AIDSへの理解と支援を実践するという共通項が軸となって共存している。

真剣な実践であるからこそ、毎年掲げられる全体テーマの変遷は重みがあり、興味深い。そう、初期から一貫して、「生きる」ことを問い続け、それは、HIVポジティブであるとか無いとかを超え、表現が変わっても、各自が自分自身の「今あるいのち」を見つめる必要性に集約されていく。まさしく、一人称で捉えるいのちの問題が根底的なテーマなのだ。「自分のいのちが大切だと分からない人は、他人のいのちを大切にできない」というお釈迦さまの言葉がある。HIV/AIDSへの関わりの中で、フォーラム全体が体験によってここに至ったのであろう。であるならば、宗教というテーマは、「性」と「生」と「死」を全て自分に内包している問題として、今ある自分自身を見つめることのできる最適な手立てであると言える。まさに、AIDS文化フォーラムがその内容を深く掘り下げて追求していく過程において、必然的にたどり着いたテーマであると言え、このタイミングで縁あって関わったことに感謝している。現在、このAIDS文化フォーラム in 横浜こそが、信仰の多様性をも受容し、自分自身のいのちの問題を解決するきっかけを提供できる可能性を持った、唯一の市民フォーラムなのである。

拝

声をかけていただき本当に感謝しています。お役に立てたかどうか分かりませんが、私にとっては貴重な経験でした。宗教とAIDSというセッションを通して、『病と死』の意味など仏教者の方々と意見交換が出来たことなど得難い経験です。私にとっては本当に『最初の一步』でしたが、『他人ごと』を決め込むのではなく、今苦しんでいる方々に少しでも寄り添うような歩みが出来たらと思われました。豊かな人・健康な人がお互いの豊かさや健やかさをほめたたえ合うような教会でなく、苦難を共に担うことを通して共に喜び豊かにされていくような教会形成を目指して歩んでいこうと思っています。関係者の方々の熱いご奉仕にも心動かされました。これからもこの活動が地道に続けられていきますように祈っています。ありがとうございました。

日本基督教団原宿教会 牧師 石田透

日本のカトリック教会の中に援助や福祉活動を担当するカリタスジャパンという委員会の中に「エイズ・デスク」という活動部門があります。最近までその専門委員の一人をさせていただいていました関係で、パネリストの一人としてお招きいただきました。

エイズの問題を考えると、感染予防の問題は大切に緊急な課題だと思いつつも、私がそれ以上に心が引かれてきたのは、理由の如何を問わず、HIVに感染、あるいはエイズを発症しておられ、苦しみ悩みながら一日一日を必死で生きている方々を私個人としても、社会としてもどう受け入れ、励まし、ともに生きていけばよいのかということでした。

私がエイズの問題に最初に心惹かれたのはマザーテレサが誰もが怖がり、世話をするのをためらっていた初期、アメリカのニューヨークへ、エイズが進行し、孤独のうちに死を待つしかない人たちのところへ、躊躇うことなく3人のシスターを派遣したというニュースでした。思いがけない体験はフィリピンのマニラで、学生とともに訪れた聖ラザロ病院(40年も昔、キリシタン大名の高山右近が国外追放となってマニラへ多数のハンセン病の患者と送られたとき、その人々の治療のためにマニラの人が設立した病院として知られ、現在は結核専門の病院となっています)で目にしたことでした。HIVに感染した人たちが開放的な環境で互いに助け合い、励ましあって生活していました。そこには、不安の中でも、受



自分自身の
いのちの問題を
解決するきっかけ



石田透牧師

他人ごと？！

け入れてくださる人たちの温かい心に包まれて生きる、そのような人に寄り添って生きながら、逆に病気の人たちに励まされ、勇気付けられながら生きている姿に心打たれたのでした。この二つの体験がHIV /エイズの問題を考えると私の原点となっています。

パネルでは、案の定、司会の方から、カトリック以外の方々が特に関心が深い「 Condomium」の使用の可否についての質問を受けました。これについて考えるときには、ガリレオ裁判についての歴史に目をやってみるのがとてもいいこととお話しました。自然科学の問題に教会がその使命や限界を超えて関わってしまったことがもたらしたもので、その過ちを公に認め、謝罪するまでに300年以上もかかってしまいました。「 Condomium」の使用についての教会の硬い姿勢は「いのちのはじまり」についての教会の基本的な考え方と深く関係して、崩れることはないのかもしれませんが、しかし、 Condomiumが発明された本来の目的とは異なる目的のために使うことの是非は慎重に議論する余地があるのではと個人的には考えています。先年、前教皇ヨハネ・パウロ2世の出身国であり、カトリックの厚い信仰のポーランドを訪問したときに、どこにでもある小さな売店「キオスク」では無造作に Condomiumが並んでいました。カトリック教会の信徒一人ひとは、HIVやエイズの問題を正面に見据えて感得しようと決意すれば、自ずと「いのち」についての深い考察や祈りへと導かれる恵のときを過ごせると思っています。人類を脅かす様々な課題に、異なる宗教を信仰していたとしても、手を携えて挑戦していくことができるのではとの希望を持つのです。

最後に、いろいろな宗教の方が一堂に会してのパネルもとても有意義と感じましたが、一つの宗教だけのパネルを組んで、深くその宗教の考え方に迫ってみるのも面白いのではと思いました。「今年はその宗教の人の考え方にじっくりと突っ込んでみようじゃないか」というのもときにいかがでしょうか。

貴重な学びの機会をいただきましたこと、心から感謝しております。

カトリックさいたま教区 助祭 矢吹貞人

来場者感想：

- 楽しくまた興味深く(座談会)を聞かせて頂きました。死生観のみでなく、 Condomiumの使用等についても幅広い視点で議論を展開していただき、有意義な時間を送ることができました。(東京都 20代 学生)
- 宗教という言葉を出すととっつきにくいとか、面と向かいにくいというイメージも多いのかも知れませんが、宗教家の方の話をもっと様々な機会で聞くことができる環境が、特に若い世代に向けてあるといいと思いました。死や病を考えることで、生きることがより深くできるのではと感じます。(千葉県 20代 その他)
- 生きている事を改めて自分で考えることができそうです。(大阪府 20代 学生)
- 私が日本人だからでしょうか、仏教の考え方がとても分かりやすく、受け入れやすかったです。中でも、同性愛についてのとらえ方はすんなりと納得できるものでした。「煩惱から生まれた一つの事象」同性愛に関わらず、様々なことがこう考えられるということがとても印象に残っています。ありがとうございました。(北海道 20代 教育)
- 宗教、概論を、それぞれの立場の方から聞くことができ、貴重な場でした。「予防できるものは予防」、でも病気になっちゃうことは誰にでもありうる。自分の罪を告白し、頼る場として宗教者は手を差し伸べてくれている ということをもっと知る場があるべきだと思いました。「生老病死」すべてあってこそ、生きていることだ。という事を知る事ができ、人生観が変わりそうです。(埼玉県 30代 保健医療)
- ありのままの気持ちや、例えば{病気の思い、セクシャリティー}をも私にとって縁があってやって来たこと(まいこんできたこと)って他人に話すことに壁、ハードルがある。そこで解決に向けてどうしていくのか、自分の中にあるって気付いた。そして、サポートしている人が宗教にあることを知った。(神奈川県 40代 保健医療)
- 半年前に家族を亡くしたばかりで、その時の別れを思い出しながら聞きました。死があるから生きることが大切になるということを改めて実感しました。(40代 教育)
- いろんな考えを聞くことができ、良かった。聞けば聞くほど、考えれば考えるほど、これが正しいというようなことはないと思ってしまう。宗教は時代と共に変わる必要があると感じた。根本理念は変わらなくても、宗教も「リアル」に生きる必要があると感じた。同時にそういう宗教家もいる ということも分かった。(北海道 50代 教育)



矢吹貞人助祭

死や病を考えることで、
生きることを考える



大下大圓住職



◆夜回り先生 水谷修

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：HIV/AIDSも、薬物も、リストカットも、結果をとらえ、その結果に至らない方法を考えているだけでは結果もよくなりません。一人ひとりがどのように生きるか、誰とどのようにつながりながら生きていくかを考える必要があります。夜回りを通して、若者たちと向き合う中で夜回り先生が感じていることは、実はHIV/AIDSに関わっている岩室紳也の思いと相通じることだといつも感じさせてもらっています。だからこそ、毎年AIDS文化フォーラム in 横浜に水谷修さんの講演会をお願いしています。(岩室紳也)

来場者感想：

- めっちゃ感動しました。来てよかったです。(神奈川県 10代 学生)
- 今日の先生の話聞き、ドラッグに対する意識が高くなりました。(神奈川県 10代 学生)
- やっぱりきてよかったです。となりの母がないでいて、久しぶりにこんなにきずなをかんじました。(東京都 10代 学生)
- 何で人は生きているのか分かりませんでした。人それぞれに生きる価値・意味が存在し、生きていいのだと思いました。(東京都 10代 学生)
- ゆうきがでた(東京都 10代 学生)
- 初めて夜回り先生の講演を聴きました。水谷先生の話聴いて涙がでました。簡単にいえることではないけど、命の大きさ重さを感じました。そして何よりも家族の大切さが伝わってきました。考えさせられることばかりです。水谷先生の行動力を本当にすごいと思います。(神奈川県 20代 教育)
- 私も教育関係の職に就いている立場として、改めて考えさせられることがありました。たくさんの子供またはその家族と関わる者として、水谷さんのように信じる心、やさしさで子供たちと関わっていきたくと思いました。(神奈川県 20代 教育)
- 命について、大切にしなければいけないとわかっていても、ここまで深く考えたことはなかったです。ユーモアをまじえながらも深い重い大切なお話を下さり、感謝です。私もやさしく、信じ合える人間関係を築いていきたいです。(神奈川県 20代 教育)
- AIDSに限らず、今を生きる子ども達との関わり方について聞いたので良かったです。また来年もやってほしいです。(神奈川県 20代 教育)
- 親には反抗ばかりで、良い子ではないですが、お話を伺って、自分もかわりたいなと思いました。ありがとうございます。(神奈川県 20代)
- 先生みたいな方がいることで助かっている人はとても多いと思います。お身体に気をつけてこれからも頑張ってください。(東京都 20代)
- たった1人とても信じられるのがアナタです。またぜひひらいて下さい。(埼玉県 20代 はいじん)
- 「命は自分のものではない」というお話とても心に残りました。今の日本は大切なことが抜けおちていると感じました。しかしそうであっても家庭があたたかくしっかりしていれば子どもは守れると思いました。(神奈川県 40代 ボランティア)
- 何度も力をもらいました。ありがとうございます。(東京都 40代 その他)
- 今日伺ったお話を子供に伝えます。まずは自分からいい方向にいく様、変わる努力をしていきます。子供達が幸せになる様に。ありがとうございました。(40代 主婦)
- 親としての自分、妻としての自分、一人の人間としての自分を見つめ直す2時間でした。自分もまだまだ生きて行きたい。そして、共に生き続けてほしい人がたくさんいます。1つでも多くの優しい言葉を口にできる自分になりたいと思いました。ありがとうございました。(神奈川県 50代 主婦)
- 人は必要とされて生かされているのだということを改めて感じました。人と人が信じ合える社会を子どもたちのために努力していきたいです。(横浜市、60代以上、その他)



やさしく
信じあえる
人間関係



◆夜回り先生・僧侶・医師が送る大人からのメッセージ

主催：水谷修 大下大圓(高野山真言宗飛驒千光寺住職)

岩室紳也((社) 地域医療振興協会医師)

内容:この3名はそれぞれ縁あってお互いにつながりました。水谷修と大下大圓は生きることを世に問う中で、水谷修と岩室紳也は若者たちの課題と向き合う中で、そして大下大圓と岩室紳也は「死にたくなって強くなる」という自殺対策のシンポジウムで。一人ひとりが「生きる」をどうとらえ、どう考えているかを語る中からこれから大人たちが発しなければならぬメッセージを考えました。(岩室紳也)

来場者感想：

- 人と人とのつながりが本当に大切なこと、自分でも何か役に立っているのかと思いつながら、頑張れる気がしました。何だか分からないけど 楽しく死を省みた。(愛知県 60代以上 保健医療)
- 3人の立場でのそれぞれのお話、メモをするのも忘れてしまって聴き入ってしまいました。お3人の対談のような本ができたらな～と思いました。(岐阜県 50代 その他)
- とても楽しいお話をありがとうございました。お寺を中心とした、コミュニケーションの輪が広がっていくと本当によいですね。(40代 その他)
- 安心できる場所、考えさせられますね。死生観の見方、また心と体両方が分離されたものでなく一つであるという仏教の考えを知らされました。コミュニケーション能力は子供達は明らかに低い。(大人の目の届く場にいる時には、いい子を演じその時間が最近はずっと長い。(塾、学校、家庭も・・・)(東京都 40代)
- 学生の頃、お盆にお寺でバイトをしていた時の事を思い出しました。ご本堂は、私にとってとても心地よい空間でした。私は心の病でした。今は働きながら、水谷先生が嫌いな(?)カウンセラーの資格を取って仲間と勉強を続けてます。共に学んだ仲間との係わりが私をささえてくれました。今日のお三方のお話にとっても共感を覚えました。(東京都 40代 その他)
- 人とつながること。つながりたい時とつながりたくない時があります。あきらめてしまうところがあります。でも、どうしたらいいのか分かりません。お寺に行ってみることにします。(30代)
- やさしさをたくさんもらいました。一人でさびしい時は、本当にいてもたってもいられなくなります。人にやさしさを配れるような人になりたいと思いました。(30代)
- それぞれがそれぞれの役割と目的を持って実践されて来た事の集大成がフォーラムで結実する日が近いと感じ、期待しています。(佐賀県 30代 その他)
- 障害と病気との違い・・・病気は治るが障害は治らない。できること、できないことの区別を本人が学ぶこと、という水谷先生のお話は衝撃的でした。本人が生きていく上で、自らの限界を知りながら。だからこそ「生きる」ことの意味は大きいと思います。(東京都 30代 保健医療)
- 日頃、障害をお持ちの方の支援をしております。亡くなられた方、自死された方、様々な方に触れ、悩んでいました。今日のお話を聴いてカタルシスが得られた気分です。地域のお寺で、座禅をする会を企画しており、引きこもり、精神障害の方と座ろうと思っていました。周囲の反対の声も多かったのですが、負けずにお坊さんと協力して実行できる自信を頂きました。(長野県 20代 福祉)
- 自分を認めること、他人を認める(受け入れる)こと、人とつながること、多くの人に出会い、場を共有すること、実感としてさまざまな事が体験できる機会がたくさんあれば嬉しいと思います。(千葉県 20代 その他)
- 過去と人は変えられない、変わるの自分だけと体感しました。私の通っている学校にはチャペル(入学式でしか入ったことがない)があるので行ってみようと思った。私はカトリックですが仏教も良いと思いました。(東京都 20代 学生)

人にやさしさを配れるような人





癒し癒される

◆いい加減に生きる 癒し癒されるスピリチュアルケアとは (理論と瞑想法実習)

主催：大下大圓(高野山真言宗飛驒千光寺住職)

内容：前日のシンポジウムで、いろんな意見交流があった影響もあって、このプログラムにも興味をもって参加してもらえた人が多かったようだ。

その日に参加者からは、

- 「ナンプーの話、タイ仏教とエイズについてが興味深かった。科学と哲学といろいろなものの融合的なお話が聞けたなあという感じです。日本人でありながら仏教について理解していなかったことが分かった。
- 大いなるもの、(忘れていた?)新しい世界を知ることができました。
- 力を抜く(瞑想)体験。「自分の体をよ〜くみる」って大切なことだと思いました。経験できて良かったです。・アルファ波が出ている状態は、こんな感覚なんだとわかり、体験出来て良かったです。

など反応がさまざまであったが、一様にこれまでのサイエンスだけの話ではなく、人のこころの深いところで、お互いにつながりあっていることを感じてもらったようだ。

ケアに関る人も、ケアをされる人もともに学び会える場でした。ありがとうございました。



連絡先：〒506-2135 岐阜県高山市丹生川町下保1553飛驒千光寺

URL: <http://daien.senkouji.com/> E-mail: daien@senkouji.com

サポートスタッフの声

『アフリカで感じた「本当の幸せ」ということ

～ケニアにおけるHIV/AIDSプロジェクトに携わる中で～』

松坂市の市長である山中光茂さんが、体験されたこと見てきたことを参加者とディスカッションを交えながら行われたプログラムでした。ボランティアとして参加した私も、このディスカッションに参加させていただきました。様々な思いを持った方が参加されていて、盛り上がりのあるディスカッションが行われていました。

スクリーンに大きく映されたアフリカの子どもたちの笑顔と、その背景にある暗く深刻なAIDSの問題は、とても対照的に感じました。

特に印象に残ったのは、AIDSがもたらす「負のループ」でした。AIDSで両親を亡くした子どもが売春によって生活をし、その子が売春によって子どもを生みAIDSにも感染し、それによって孤児がうまれてしまう…という延々とループする問題です。AIDSという病気も恐ろしいのですが、それによって人々の生活が脅かされている現状も大きいのだと気づかされました。

アフリカのAIDS問題は、遠く離れている場所で起きていることで自分とは関係ないと思っていたのですが、子どもたちのあの笑顔が少しでも長く続くように支援できることがあればやっていきたいと感じました。

◆同性愛の社会学

主催：南定四郎

内容：第二次世界大戦の後、「秘すれば花」等という控えめな性行動から路上で性愛の相手を求める時代となりました。とりわけ同性愛者の性欲に社会化をもたらしました。AIDSの登場は同性愛者を個人的生活から社会的なサポート活動へ向かわせるきっかけを作りました。レズビアン・ゲイパレードは社会的市民としての権利要求の政策実現のために開始されたのですが、その目標に合意することができない人々によって崩壊しました。

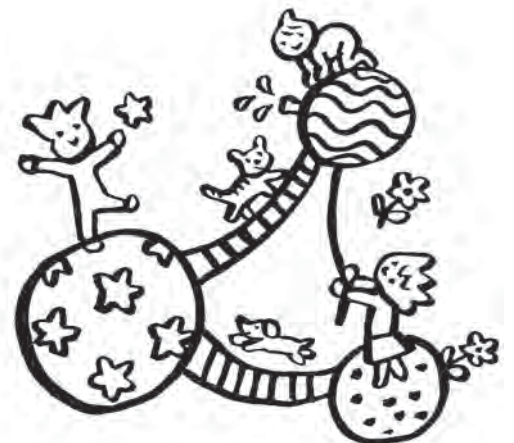
来場者感想：

- 当事性の多様性を尊重していくうえで、セクシャルマイノリティとされる人は必ず存在してしまうだろうが、その時の市民性の形成具合によって当たり前にご過せる社会(システム)がないこともあるのだと気付くことが出来ました。(神奈川県 30代 保健医療・教育)
- 運動の歴史を知ることが出来ました。(東京都 30代)
- 大変貴重なお話をありがとうございました。(神奈川県 40代 その他 臨床心理)
- 同性愛者の人たちが、社会でどのように生きてきたかの背景が理解できた。ありがとうございました。(東京都 40代 保健医療)
- 日本(戦後)の同性愛の歴史が分かりました。20数年前の社会学と違って面白い！当時こんな授業をうけていたらもっと勉強したのかなあ・・・(東京都 40代 その他)
- なんだかとても難しい感じがしました。ゲイが社会と渡りあうために、あれこれと理論武装しなくてはならないのかという印象のみ残りました。(愛知県 40代 その他)
- 参考になりました。ありがとうございました。(東京都 50代 保健医療)

● 連絡先：〒162-0063 東京都新宿区市ヶ谷薬王寺70ブラザー若林301



運動の歴史



◆孤立させないために ～性的マイノリティ青少年のためのコミュニティ～

主催：横浜Cruiseネットワーク

神奈川県内のMSM(Men who have Sex with Men)を中心としたセクシャルマイノリティを対象としたエイズ予防をはじめとした啓発活動を展開する当事者団体です。

内容:エイズ予防において重要な、セクシャルマイノリティへの社会的理解の促進キャンペーン「Presence2009」の一部Voice(セミナー)として開催。講師に加藤慶氏(横浜国立大学大学院非常勤教員)、石川大我氏(ピアフレンズ代表)を招き、みんなが自分らしく生きられる社会であるために、偏見や差別の中で孤立しているセクシャルマイノリティの青少年への理解とコミュニティ提供の必要性と効果、社会に求められることについて探るセッションを行いました。

来場者感想:

- 信頼してカミングアウトしてくれた友達とは友達のままでいられると思った。(20代 保健医療)
- 青少年にアプローチをする際に少しでもセクシュアリティの問題を入れていくことが必要だと思う。青少年にスポットを当てて大変よいと思った。(20代 NGO/NPO)
- 保健所から「性」についての講話を行うだけでなく家庭や学校で性の多様性について伝えていけるような社会にしたい。(20代 保健医療)
- 高校のときにSHIPとか知っていればよかったなと思う。(20代 学生)
- 同姓愛に関してはまだまだよく知らない人も多いし、誤解もたくさんある。ゲイの問題は複合的に考えなければならないと思った。(20代 会社員)
- 精神医学との連携が必要。相談を受けた医師が専門機関を紹介するシステム等を。(30代)
- LGBT関係について一般のものとコラボで取り上げてほしい。地域性ということを活かしてほしい。(20代 会社員)

連絡先: 〒221-0834神奈川県横浜市神奈川区台町14-2 ピレア台町2F

かながわレインボーセンターSHIP内 Tel&Fax: 045-306-6769

URL: <http://ship.y-cru.com/> E-mail: ship@y-cru.com

サポートスタッフの声

「出会ってよかったと思える人になりたい」

私にとってボランティア活動は、子ども会で行った地域のごみ拾いや資源回収、高校の特別活動の小中学校での車椅子体験教室などで、その時は早く終わればよいと考えることもありましたが、そんな私のボランティア活動に対する考えが変わったのが、今年の夏に参加した「2009 AIDS文化フォーラム in 横浜」でした。私は、サポートスタッフ(会場ボランティア)として、発表プログラムのための会議室の準備・進行補助、入場者へのアンケートの配布、緊急時の入場者への対応や事務局への連絡でした。

今回、「夜回り先生」の著者である元教員の水谷修氏、医師の岩室紳也氏・上村茂仁氏らがボランティアとして講演をしていたことは、私にとっては意外なことでした。ご自身の経験や職業と関連させたボランティア活動で社会に必要なことを伝えてく方々に会えたことは私の人生にとってかけがえのないことでした。社会のために、人のために、ボランティア活動に本気で取り組んでいる人を初めてみることができました。

これからは私自身がまだまだ多くの人に出会っていくために、私が出会ってよかったと思える人になるために、これからもボランティア活動を続けていきます。



孤立させないために

◆検査しやすい環境づくりのために～ 「ゲイ・バイセクシュアル男性理解のための アプローチ」

主催：エイズ予防のための戦略研究 ～MSM首都圏グループ～

佐藤未光 (Rainbow Ring代表/医師)

生島 嗣 (ふれいす東京/専任相談員)

岩橋恒太 (エイズ予防財団/ふれいす東京)

内容:日本のHIV感染は増加の一途にあるが、その7～8割が男性同性間の性的接触による感染であり、緊急対策を講じて成果を上げることが戦略研究に求められている。戦略研究にはゲイ当事者による様々な団体のスタッフが参加しており、それぞれの持つ資源やノウハウ、ネット

ワーク等を活用しながら活動をしている。相談支援部門では、HIVの支援情報や基礎情報の情報源としてのホームページや携帯サイトの構築と充実を進め、それと連動させるかたちで啓発普及部門では、陽性者の綴った手記を用いてHIVが身近な存在である現状を伝えることを主眼に資料を作製してきた。また、今までアプローチが困難であった地域コミュニティ、スポーツや音楽サークルへの啓発、FM東京とのコラボレーションによるイベント開催等をおこない、ゲイの多様性を考慮した啓発普及を図っている。検査環境改善部門では、ゲイが受検・相談しやすい検査環境を整えるために、保健所等の職員を対象とした講習会を定期的に開催している。今回はその内容の一部であるセクシュアリティの理解と対応方法について講義をした。調査研究部門では、2008年度に首都圏のゲイバーの顧客を対象としたアンケート調査を実施し、長年アプローチをしてきた地域と最近アプローチができるようになった地域ごと、また年代ごとの意識・知識・行動の違いが明らかになった。これからアプローチを進めていく地域には、その特性を配慮した啓発方法で進めていく予定である。



出会ってよかった
と思える人

来場者感想:

- バーのアンケート調査のデータはとても興味深かった。少しずつ浸透していった欲しい。セクシュアリティの話は、年代によっても感覚や受け入れ方に差があると思う。(NGO/NPO)
- インターネットが今は主流だが、まだ冊子やパンフなどの紙での情報も必要ということがわかった。(NGO/NPO)
- 今まで、社会的、統計的な視点で知る機会がなかったため役にたった。接し方、相談の受け方もよくわかった。(保健医療関係者)
- MSMの方々のことがよく分かり、しっかりとしたデータに基づき説明されていたため、とてもためになった。このようなリサーチは男性調査員(又はMSM当事者)でなくてはやりにくいのかなという印象をもった。(学生)

連絡先: エイズ予防のための戦略研究MSM首都圏グループ事務局
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス204(ふれいす東京内)

担当: 加藤/生島 Tel: 03-3361-8964 E-mail: senryaku.tokyo@gmail.com

HIVマップ (すぐに役立つHIVの情報サイト):

<http://www.hiv-map.net/REAL-Living Together>

(エイズ予防のための戦略研究MSM首都圏グループの紹介サイト):

<http://www.real-lt.net/>





◆PEER えんみちゃんからのメッセージ

主催：遠見才希子

聖マリアンナ医科大学5年生。Peer（仲間）の視点で自分自身が中高生のときに聴きたかった性の話を全国150箇所以上で語っている。

内容：今年で3回目となる大学生による休み時間のPeer講座。全5回。

①紙芝居

私が性を語るようになったきっかけから中高生時代の話まで紙芝居で紹介。

②性感染症

HIV感染をモデルにした水の交換ゲームを来場者全員で行い予防や検査の必要性を考えた。

③DVD上映

「自分と相手を大切にするって？～えんみちゃんからのメッセージ～」(発売元：日本家族計画協会)を上映。

④人工妊娠中絶

中絶を経験した友人の手記を朗読。緊急避妊ピルの説明も。

⑤薬害エイズ

薬害HIV陽性者の桜屋伝衛門さんをゲストに迎え、風化させてはいけない薬害問題や偏見を生み出しかねないスローガンについて熱いトークショーを展開。



自分と相手を
大切にするって？

来場者感想：

- えんみちゃんが語り始めた頃から見ていますが、色々な仲間と出会ってすごく成長していると感じます。また来年子どもたちを連れてこれるよう頑張ります。(30代 神奈川県)
- 当事者の視点に立って話す姿に感動しました。(20代 東京都)
- DVD購入して何度も見えています！見る度に色んな事に気付きます。(30代 埼玉県)
- 「性」にこだわらず10代の学生生活を前向きに生きるメッセージが大切だと思いました。(30代 福島県)

連絡先：遠見才希子 ブログ<http://ameblo.jp/emmskk/>



サポートスタッフの声

人身売買やAIDS問題に直面するパヤオセンターの子どもたちの自立支援を目的とする手芸品の販売ボランティアを続けていたことから、パヤオセンターの様子を伝える展示ブースを担当したことがきっかけで「AIDS文化フォーラム」のサポートスタッフボランティアを始め、その後、毎年お手伝いをさせていただいています。パヤオの少女たちの問題を身近に受けとめ、「私にできること」として取り組んだのが当初の動機かもしれません。分科会を主催する団体も繰り返して参加する傾向が強く、HIV/AIDSに対する理解、問題意識を社会に浸透させるべく活動している様子が伝わり、継続することの大切さを実感しています。

ここ数年、中学生、高校生などの若い世代のボランティアが増えていることは嬉しいことです。決して他人ごとではなく、問題を共有しようすること、理解しようとする、共に生きようとするのがこのフォーラムの中に感じられ、毎年参加を楽しみにしています。

井筒 幸乃

◆Peer Education～心に響く性教育を～ 医学生からのメッセージ

主催：遠見才希子

聖マリアンナ医科大学5年生。Peer(仲間)の視点で自分自身が中高生のときに聴きたかった性の話を全国150箇所以上で語っている。

内容：中高生向けの模擬授業。来場者約100名。

感染が広がるゲームを行ったり、男性に風船を持って「子宮くん」に扮してもらいクラミジアが不妊症になる理由などを説明した。正しい知識を伝えるだけでなく、私がHIV検査を受けて気づけたことや産婦人科病院実習で感じた気持ちなど自分の経験談を通して心に響くメッセージを送った。講座の様子はNHKニュース首都圏ネットワークで紹介された。

来場者感想：

- 「心に響く」授業ってすごい。高校生くらいの女の子の目線があり、正しい知識があり、えんみちゃんの強い思いがあり、という授業でした。(愛知県 20代)
- えんみちゃんはすごいいい人なんだと思った。ふつうに友達になりたいと思った(笑)。(神奈川県 10代)
- 自分の言葉で語るってパワーがありますね。失敗することはたくさんある。でも毎日必ずやってくるし、だからどこからでもやりなおせるという言葉、ウルッときました。(熊本県 30代)
- 手書きのイラストもいい！そんな中で悩みつつやっていると聞き、なぜかホッとしました。(神奈川県 40代)
- とっても素直で小さなことに気づくやさしい気持ちが、子どもたちに共感を与えていると思いました。(岐阜県 40代)



「心に響く」
授業ってすごい

◆高校生エイズフォーラムKANAGAWA

主催：高校生エイズフォーラムKANAGAWA

高校生および専門学校生、大学生を中心に若者に対するHIV/AIDS感染防止教材を開発し、同世代の視線から啓発活動を展開する団体。

内容：配付資料として、「エイズの基礎知識」、「感想・DVD申込記入書」を配布した。発表は、①今までの高校生エイズフォーラムの活動紹介(10分)、②ミズホとサトシの上映(15分)、③意見交換(感想・その後の展開)(15分)、④ミズホとサトシ(その後)の上映(20分)、⑤意見交換(感想)(15分)、⑥ワーク(教材をどう活用できるか)(20分)、⑦今後の高校生エイズフォーラムKANAGAWAの活動、の流れで実施した。聴衆は決して多いとはいえなかったが、教材の活用方法に関するディスカッションでは、「一般の人が見てくれるような紙媒体がいいだろう。」「学校での性教育で使ってもらったらいいと思う。」「ホームページを自分たちで作っていくのもいいだろう。」「コンドームが入った袋の表紙にちょっとした4コマ漫画があって、裏面にQRコードがあって、HPに飛ぶと詳しく情報を見られるという形はどうだろうか。」等、今後の本会の活動として展開できるような提案も得られ、有意義な機会となった。

連絡先：高校生エイズフォーラムKANAGAWA

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2
横浜国立大学教育人間科学部 物部研究室
Tel: 045-339-3276



◆ハマッコ弁護士が語る！女性とこどものSOS

主催：てのひら～人身売買に立ち向かう会

人身売買問題の現状を一人でも多くの人と共に考え、この人権侵害を放置しない社会の実現をめざしています。

内容：今年のフォーラムでは、横浜を中心に活躍されている弁護士・東玲子さんをお迎えし、人身売買問題にも深く通じる、DVと子どもへの虐待について、お話頂きました。東さんのお話の中で特に印象に残ったのは、暴力の加害と被害の両面を予防するためには、被害者への支援はもちろんのこと、加害者がなぜそうした行為に至ったのか、どういう状況でその暴力を繰り返していたのかについて、その人が暮らすコミュニティの中で、その人にアプローチできる人がいるかどうかを肝心だという内容です。コミュニティが、人を孤立させないことの重要性を示唆されたように思います。東さんのお話のあと、ワークショップ「あなたにとって安全で安心できる居場所とは何か」を行いました。とても深いテーマでした

が、参加者からは、家族とは何かを改めて考えた、家族以外で、その人が暮らすコミュニティの中にその人にとって安心できる人を見いだしていくことも大切だ、暴力被害の現状を知る度に打ちのめされる思いだが、全体を通して温かい気持ちになれる会だったという感想を頂きましたが、私たちのワークショップ自体も内容の幅を広げることができる有意義な機会になりました。



コミュニティの中に
その人にとって
安心できる人を
見いだしていく

連絡先： てのひら～人身売買に立ち向かう会

〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町149-4 緑郵便局 留

Tel: 050-1445-6947 Fax: 020-4624-7480

E-mail: tenohira_ycatip@hotmail.co.jp

※人身売買問題を通して人権について考えるワークショップの依頼大募集
ご依頼は当会URLより→http://www.geocities.jp/tenohira_trafficking/

◆日本の社会保障ってどうなっているんだろう？

主催：薬害エイズを考える山の手の会

内容：健康保険に医療保険や生命保険、年金に障害者認定、介護保険に生活保護と私たちの周りにはたくさんの社会保障制度が存在しています。でもなかなか全部を詳しく知っている人、そうそういません。そんな時、どこに相談すればいいのか？どんな制度が存在して利用できるのか？最初にぶれいす東京の生島さんからHIVの医療制度の現状と問題点を問題提起してもらい、日本に存在する様々な制度や機関のこと、そして生きるために必要な仕事のことや医療のことをシンポジストの薬害被害者と医療従事者と参加者で一緒に考えてみました。参加者全員で議論が出来て、また、県の担当者も参加して現場の生の議論が出来ました。

来場者感想：

- 社会保障制度について、オーバースティの外国人のケアが不十分なのが分かった。患者が使いやすい制度になるために当事者等皆で声をあげることが重大。選挙が大事。
- 当事者、援助者の話が聞けて良かった。
- 現場の生の声が聞けて楽しかった。当事者の体験がざっくばらんで目を見張った。
- みんなのいろいろな議論が聞けて良かった。

連絡先： 薬害エイズを考える山の手の会 江川 守利

〒123-0865 東京都足立区新田3-17-2-105

Tel&Fax: 03-6802-5680

E-mail: egawa.moritoshi@topaz.plala.or.jp



他人ごと？！

◆職場におけるHIV/AIDS

主催：NGO－労働組合国際協働フォーラム HIV/エイズ等感染症グループ

NGOと労働組合が連携して、世界の貧困や教育、保健などの課題に取り組むことを目的に設立された。

内容：最初に主催グループの紹介とHIV/AIDSに関する基礎知識のプレゼンテーションを行なった。

次に職場で感染を伝えた結果、意に反して異動させられた、という内容の陽性者の手記を、参加者によって読み合わせを行なった。

次がメインの模擬労使交渉。「製造現場勤務の組合員が、HIV感染を会社に告げた途端に配置転換させられたと組合に訴えてきた」という前提で、組合として会社に対して労使交渉の場でどのような要求をするか、4つのグループに分かれて話し合った。その後、2グループずつが会社側と組合側に分かれて、それぞれの立場から意見をぶつけ合う模擬労使交渉を行なった。

参加者からは、「本人の働きたいという気持ちが尊重されない社会があるのは悲しいことだと思う」「交渉する人たちがHIVに対するしっかりした認識をもつことが大切だと思う」などといった意見が出た。また「模擬労使交渉は色々な考え方や交渉の仕方を勉強することができて良かったと思う」といった意見もあった。

参加者は、労働組合役職員を中心に12名と少し寂しかったが、ボランティアさんにも参加してもらい、活発な議論ができた。



交渉する人たちが
HIVに対する
しっかりした
認識をもつことが
大切だ

連絡先：(特活)シェア＝国際保健協力市民の会 山口誠史

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル5階

Tel: 03-5807-7581 Fax: 03-3837-2151 E-mail: forum.aids@jilaf.or.jp



毎日新聞 2009年8月6日

制度とその運用

非加熱製剤でHIV（エイズウイルス）に感染した薬害エイズの被害者らを囲む勉強会に、時間の許す限り出席している。最近では薬害肝炎の被害者も加わる。昨年あたりから話し合うのは社会保障のあり方だ。「さまざまな制度ができたが、うまく運用されているか？ うまく使いこなしているか？」との声が上がったのがきっかけだった。

勉強会での話だ。薬害エイズ訴訟の和解を受け、地域間の医療格差解消などを目的に、エイズ治療の中核となる拠点病院制度が整備された。だが10年以上たっても一般医療機関から拠点病院への橋渡しがうまくいかなかったり、拠点病院自身がそうと知らない例がある。地域格差も依然残る。



薬害肝炎では、C型肝炎感染者らがインターフェロン治療を受ける際に助成金を受けられる制度ができた。だが自治体は十分認識せず、利用しやすさが地域で異なる。

「制度と現実の運用にはギャップがある。なぜ起きるのか、どうすれば解消できるかを考え続けたい」と、勉強会を主宰する江川守利さん(55)は言う。間近に迫った総選挙でも各党はさまざまな新制度の創設を訴える。肝心なのは、うまく運用されるよう、我々が不断に監視することだろう。

勉強会は8日午後、「かながわ県民センター」（横浜市）でのAIDS文化フォーラム（7～9日）で、制度とその運用を語るシンポジウムを開く。無料。問い合わせは江川さん（03・6802・5680）。【山科武司】

◆医学部5年生に行う性教育

主催：埼玉医科大学産婦人科 高橋幸子

性教育、性感染症を専門にする産婦人科医師です。



内容：日本で1日に700人の女性が、望まない妊娠のため、人工妊娠中絶を受けています。

「大人のための性教育」は医学部5年生の産婦人科実習(2週間)の中に組み込まれた「避妊と性感染症」のプログラムです。

①医学生として正しい知識で友達の性に関する相談に乗って欲しい

②将来親になったとき、自分で自分の子どもに性教育が必要である

ということを訴えてきました。大学生と話して思うことは、「医学生といえども、正しい知識を持っていない」ということ。

大人が、自分のカラダを守るための正しい知識を持っていなければ、子ども達に正しい知識を与えてやることはできません。30代以後の人工妊娠中絶も実は多いのです。

日本で現在使用できる8つの避妊法と、命に関わる性感染症「子宮頸がん」「クラミジア」、最後に、中学生・高校生の性教育講演会や、当院の母親学級でも使用している分娩のビデオを上映しました。このビデオは、私が4年前に出産をした際のビデオです。

希望したときに妊娠することは、とてもハッピーなできごとですが、そうでない妊娠はやっかいな出来事に他なりません。女性が自分のカラダを自分で守り、男性は女性を大切に。そんな社会になってほしいと願っています。

連絡先：埼玉医科大学産婦人科 高橋 幸子

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38 埼玉医科大学 産婦人科

Tel: 049-276-7347

E-mail: sachiko@dr.com

ブログ: <http://ameblo.jp/laci-lion/>

中高生向け性教育ブログ: <http://blogs.yahoo.co.jp/sakkochororo>

私の身の回りにも
デートDVはある

◆携帯メール相談にみる若者の性行動の現状とデートDV

主催：上村茂仁 ウィメンズクリニック・かみむら

内容：毎日100通以上送られてくる中・高生のメールから、今の若者の現状、悩みについて説明した。特に男女の付き合い方やデートDVの意味やその現状について実際の携帯電話の画面を映しながら、子供たちからもらったメールを使って話した。また予防教育の必要性を語った。デートDVの関係においては、コンドームを90%以上の男性が使用しない現状から、デートDV予防はSTIやHIV感染蔓延の予防に繋がる事を確認した。

来場者感想：

- 子供たちの現実の驚きとともに、予防教育の大切さをしみじみ感じました。まず出来ることからやる、このことを実行しようと思います。
- 上村先生の話は以前から聞いてみたいと思っていました。ジェンダーと束縛の流れがとてもよくわかりました。私も頑張ろうと勇気をもらいました。
- 私の身の回りにもデートDVはあるんだと、びっくりしました、思い当たる人たちが沢山います。今後いろいろな勉強して、私も理想的な彼氏を見つけようと思います。
- デートDV予防って結局人間の付き合い方の基本なんだなと思った。デートDVとSTI予防、確かにすごい関係があるんだとつくづく考えさせられた。



連絡先：上村茂仁 メール相談、連絡kamimura@kitty.jp

STIカフェ掲示板 <http://sti.bbs.coocan.jp/>

◆わたしたちが受けたいAIDS／性の授業

主催：エイズを伝えるネットワーク(TENCAI)

HIV/AIDSと性の健康教育を通じて、多様な価値観をつなぐコミュニケーションを促すワークショップを企画・開催しています。

内容：現役中学、高校生が夏休みのボランティア体験による3日間のワークショップで「自分たちが知りたいエッチの問題」を45分の授業に作り上げました。そのプロセスを紹介しながら、中学生の気持ちや関心の所在を知るとともに、実際に作られた「中学生のセックス」をテーマにした授業を体験してみました。



来場者感想：

- 自分が「どういふふうに指導したらいいんでしょう？！」という強迫的な人だったと思うので、ちょっと肩の荷がぬけて良かったです。
- なんか、出て楽しかった！
- びっくりするような話が聞けて面白かった。マイナスとかプラスとか分けられないような価値観の問題が面白いです。
- 男子と女子で感じ方が違うことをわかりやすく学べました。”違う”と言葉で言っているだけでは伝えられなかったと反省。
- 中学生の気持ちがまるでわかっていなかった。
- 大人はたまに中学生の作文を読んで、昔の自分を思い出すといいんじゃないか。
- 中学生にわかりやすい＝自分を知ることができる用法を学び、とても満足です。

連絡先：エイズを伝えるネットワーク(TENCAI)

〒101-0021千代田区外神田2-1-11 松住ビル2F B室 わかばてい2内
E-mail: mail@tencai.org

多様な価値観をつなぐ
コミュニケーション

◆まずは話そうHIV

～ともに生きるために～

主催：AIDS文化フォーラムボランティアOB有志

内容：会場ボランティアを通じて、何年にも渡りAIDSに関わる様々な人の声を聞いてきた立場として、また学生である自分達は今何が出来るのかを考えました。そして、性に関してもっと自由に話し合える場を提供しようと試みました。来る者拒まずのフリーディスカッションの中で、各々が抱えている不安や疑問を少しでも吐き出してもらえたんじゃないかと思います。

来場者感想：

- 聞くだけの講義が多かったため、こうやって自由に話し合える場は新鮮だった。とてもいい機会だと思う。(30代 保健医療)
- 普段、友達ともなかなか話せないことを知らない人達と真剣に話すなんてなかなかない経験だった。(10代 学生)
- すごくフランクな雰囲気が良かった。(20代 学生)



連絡先：AIDS文化フォーラムボランティアOB有志 連絡担当 松崎薫

〒301-0837 茨城県竜ヶ崎市3362
Tel: 090-3682-8101



◆デートDV! ?どうなってるの? 10代の恋愛

主催: 特定非営利活動法人エンパワメントかながわ

どんな人も一人ひとりがとても大切な存在だと伝えていきたい…

暴力のない社会の実現を目指し神奈川県内を中心に様々な人権啓発活動を行っています。CAP(子どもへの暴力防止)プログラムの提供を柱として、「デートDV予防プログラム」「すきっぷ(子どもの護身法)プログラム」など、人権啓発プログラムを開発、提供しています。

内容:おとなだけの問題だと考えられていたDVが、今、10代の恋人たちの間にも起きています。恋人からの暴力のことを「デートDV」といいます。デートDVが自分の子どもや、その友だちに起きていたら… 当団体が開発したエンパワメントかながわ「デートDV予防プログラム」を体験しながら、おとなとしてできることを共に考えました。当日は高校生や大学生の参加もあり、楽しいワークショップが開催できました。



来場者感想:

- ワークショップ、とても有意義で楽しかったです。自分の意識していなかった部分も今日のお話を聞いて気付かされた気がしました。今後のためにも知識として自分の中で持っているのは大切なことだと感じました。
- デートDVについて、分かってきた気がします。自分に出来ることを少しずつやっていきたいです。ひとは、「暴力を受けずに生きていく権利がある」本当にそうだと思います。私たちには、幸せに生きる権利がある。皆に幸せになってもらうため、皆で力を合わせていけたらいいと思いました。
- デートDVということをあまりよく知らなかったので、楽しく学べて良かったです。寸劇もとても上手だったので、面白かったです。ありがとうございました。

連絡先: 特定非営利活動法人エンパワメントかながわ

横浜市神奈川区鶴屋町2-9-22-701

Tel: 045-323-1818 Fax: 045-323-1819

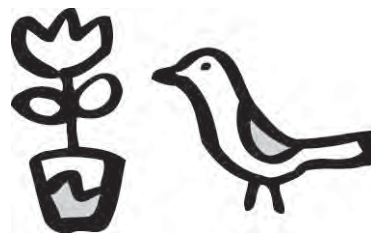
(電話受付: 月・水・金10時~16時)

E-mail: kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp

団体URL: <http://www15.ocn.ne.jp/~empkng/>

デートDV予防啓発サイトURL: <http://www.1818-dv.org/>

暴力を受けずに
生きていく権利がある



◆養護教諭と作るAIDS出前授業

主催：岡島龍彦 (H. I. Voice Act)

リラックス、楽しむ、感じるを基本に、お互いの思いを語ることから、AIDSを自分自身の課題としていく活動

内容：養護教諭と作るAIDS出前授業

公立・私学の中学校や高等学校の養護教諭をゲストに迎え、それぞれの学校での取り組み例や共通の課題等を意見交換した。・アイスブレイク ・自己紹介(どこから来て、普段の仕事、好きな人) ・ゲストの発表(朗読含む) ・意見交換

来場者感想：

- 様々な職種、実践などが聞けてとても良かったです。(神奈川県 20代 教育)
- ディスカッション形式でいろいろな立場の方のお話、事例を聞いて考えさせられました。(神奈川県 20代 保健医療)
- 色々な方法で思春期に関わる方々がいるということがわかりました。こういった所に参加すると「私には何ができるかな?」と考えるきっかけになります。ありがとうございました。(埼玉県 30代 保健医療)
- 熱気(+)、経験豊かな発言(+)、熱意ある日々の対応、そんなものを感じた。明るい未来に、個々の努力が大切、やっけて、やります という印象(60代以上 保健医療)
- 朗読ワークは、いつ聞いても、何度聞いても、読み手が替わることで、また文章に命が吹き込まれる感じがします。もう15年以上も前の文章だって、今でもリアリティを感じられ、初めて聞く方々にも多くのメッセージを届け、また感じてもらえていると思いました。やはり継続していくことは大事ですね。決して風化させてはいけなできごとや、今の時代を生きていく、性感染症・エイズのことに関心のなかった人たちに、一人の語り部として、存在していきたいと思いを強くしました。(千葉県 教育)
- 全員で参加しているという、一体となったワークショップだと感じました。1つの詩、Voiceの朗読を一人一人、それぞれの思いで受けとめ、「他人ごと」ではなく、より身近なものとして関わっていくことができた。(千葉県 教育)

連絡先：岡島龍彦

E-mail: tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp

Tel: 070-6656-8860

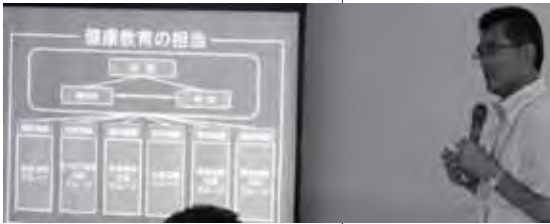


色々な方法で
思春期に関わる
方々がいる



◆教師と臨床検査技師のコラボによるエイズ啓発の実践

主催：神奈川県立百合丘高校校長 安藤晴敏
東京都臨床検査技師会 鶴岡尚志



内容：エイズ教育、啓発は学校現場だけではなく、多方面からのサポート、情報発信が必要であると昨今特に感じます。

昨年の世界エイズデーに東京都臨床検査技師会の研修会に参加させていただき、そこで熱心な取り組みに出会うとともに、また、啓発活動への大きな課題にぶつかっている現状を知ることができました。この課題は、東京都臨床検査技師会のみではなく、全国の啓発活動をしている

団体に共通の課題であると推測し、臨床検査技師会の啓発活動と学校のエイズ教育の現状及び要望等を交え、初の試みとしてコラボを考えました。

東京都臨床検査技師会は検査技師として見えるエイズの啓発活動に力を入れています。特にHIV検査は得意とすることであり、検査方法は学校現場では特に情報のない分野です。また、STDに関しても医学的な分野から納得のいく説明がされました。学校では「感染症」の括りが大きいため、STDの詳細についてはなかなか時間が割けないのが現状で、検査技師会の内容は今までと違った視点でした。活動紹介のなかで、啓発活動における大きな課題が出されました。特に学校へ参入するときの切り口や、学校の窓口。啓発活動をしたいが、そのノウハウについての課題等を投げかけました。「学校は近くて遠い存在」の一言は教員として痛く、重い言葉でした。

その課題を受け、学校現場で外部講師による「STD・エイズ教育」を企画・運営する側として、事前打合わせの重要性や、窓口となる役割の教員、講演時期及び内容等を、紹介する事ができました。

学校では講演会時期等は年間行事計画で前年度の2月3月に決定し、講師探しをします。早めの働きかけが必要である。また、講師選びは教育現場という環境を考えると、慎重に選ぶ。特に人権への配慮をしない言動は許されない。また、講演内容等は事前に学校と打ち合わせを行い、学校のニーズに応じた内容としていただきたい。学校の教育方針や教科の学習内容や進捗状況等を踏まえた講演内容が望まれます。しかし、伝えなくてはならない内容はしっかり押さえなくてはなりません。講演内容や説明のしかた、言語表現等により大きな問題になりかねないこともあります。そのようにならないように、講師側の内容等、事前打ち合わせは時間をかけ、慎重にお願いしたい。

このような内容で初の検査技師会と教師とのコラボはこれからのエイズ教育・啓発活動に大きな課題を投げかけたのではないのでしょうか。

ご参加いただきました皆様に感謝申し上げます。

来場者感想：

- 教育の立場からのお話がとても参考になりました。STD予防の話をするうえで、教育者、生徒、保護者のニーズにもっと耳を傾けなければいけないと思いました。(東京都 20代 保健医療)
- 「だめなものはだめ」。STDは怖い病気だけど、恐怖教育は良くないということ、授業でも気をつけたい。STDは怖いというより、哀しい、せつない、何で・・・となる病気といってみようかと思います。(新潟県 40代)
- 学校も手をのばせばいろいろな方とつながれると感じました。生徒に様々な角度から考えさせる機会を作っていきたいと思いました。(群馬県 50代 教育)

連絡先：神奈川県立百合丘高等学校
安藤晴敏 Tel: 044-977-8955(代表)
三宿病院 鶴岡尚志
Tel: 03-3711-5771



多方面からの
サポート、情報発信
が必要

他人ごと？！

◆AIDS予防のための小中高の 「生きるための心の教育(性教育)」

主催：PNY [ぴにい Peer Network Yamagata]
(性問題対策を考える保健師の会)

PHA、NGO、学生・PTA・教育者、医療関係者・行政等、様々なメンバーが対
等な立場で共にAIDS/STIの予防対策を考える会です。

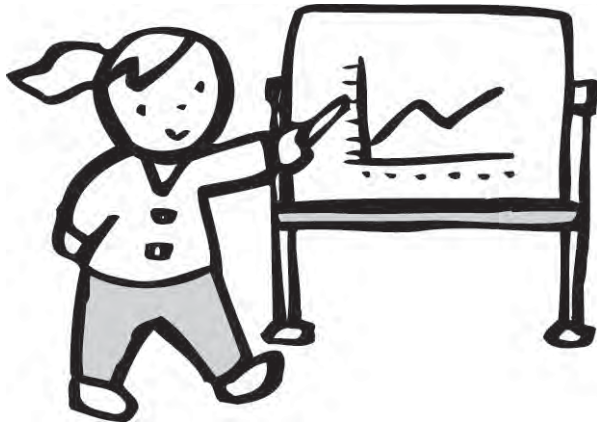
内容： 家庭・学校・地域で取り組む「生きるための心の教育」とAIDS予防について系統
的に継続することがどのようにAIDS予防につながるのかを中心にPNYからお話させてい
ただき、皆さんと今後の活用について検討しました。

来場者感想：

- 組織的に説得する方法がわかった。
- 幼稚園に勤務しているので幼稚園の性教育も検討していきたい。
- 地域を分析する方法など、今つまづいていることを解決するためのヒントを得ることができた。
- 地域内にいると燃え尽きてしまうので、全国的な視点でお話しただけパワーをもらった。
- 性教育への取り組みが学校によって違うことを知ったりとても勉強になった。養護教諭になったら重要性について発信していきたい！

等の感想をいただきました。今後も継続した活動をしていきたいと思ひます。

連絡先：代表 渡會睦子
〒141-8648 東京都品川区東五反田
4-1-17 東京医療保健大学内
E-mail: mutsuko@mub.biglobe.ne.jp



AIDS対策における
保健師の役割

2009年9月1日 家族と健康

<p>今年で十六回目を迎える「AIDS文化フォーラムin横浜」が八月七日(九月、横浜市)のなかで、わが県民センターで「他人(DIY)ごと」をテーマに開催された。</p> <p>PNY (Peer Network Yamagata) ・性問題対策を考える保健師の会の渡會睦子東京医療保健大学講師は、「AIDS予防のための小中高の『生きるための心の教育(性教育)』」、「新たにAIDS対策における保健師の役割を検討しよう」の二題の講座を開き、保健・医療・教育関係者らと討論を行った。</p>	<p>渡會氏は、山形県で立ち上げたボランティア団体PNYにより、小・中・高校生向けの教育プログラムと指導用資料、CD-ROM教材を開発し、教育委員会を通じて県下に配布し、普及をはかってきた経緯を説明。エイズを含む性感染症予防の啓発普及には、各種の機関と連携し、系統的に継続的に取り組むことが必要だと述べた。</p> <p>また保健師の立場から、幅広い視点から地域の特性を分析し、その地域に合ったやり方を考える啓発普及を実施することが重要だと強調した。</p>
---	---



◆高校生と作る身近さへのコミュニケーション

主催：県立横浜平沼高校演劇部+H. I. Voice Act

HIV/AIDSに影響を受けた様々な人たちの言葉を朗読することから、AIDSを自分自身に身近な事柄としていく活動



内容：高校生と作る身近さへのコミュニケーション

演劇部生徒をゲストに迎え、一般参加者とともに、普段、Actが学校で行っている朗読ワークショップを体験した。

・アイスブレイク ・H.I.Voice誌の朗読 ・感想交換 ・朗読劇場に向けて配役決めと進行確認(この後のフォーラム閉会式で朗読劇場を披露)

来場者感想：

- 初めて会った人も多かったけど、みんなフレンドリーでよかった。エイズの人言葉の初めて読んで、初めてこんなに考えました。
- HIVに感染しても前向きに生きていこうとする人達のことを知ってすごいと思いました。
- 皆で音読する楽しさを覚えた。
- とても楽しくできた。エイズについてより考えていこうと思った。こういう朗読ってなかなかきかないので、良い経験になりました。
- AIDSについてよく分かっていなかったことを思い知りました。(以上、神奈川県 10代 学生)
- エイズについて、あまり知らない私でも、気楽に参加することができました。(東京都 10代 学生)
- いつも朗読なんてしないので、貴重な体験になりました。ポジティブの人たちの本音とか気持ちとか、いろいろ考えました。演劇部の人とも仲良くなれてよかったです。☆きてよかった!!!(茨城県 10代 学生)
- キンチョウしたが、現実の高校生の意見が聞けてよかった。(埼玉県 40代 教育 NPO)
- ワークショップの楽しさを体験しました。(神奈川県 50代 教育)
- 緊張したが、とても良い体験ができました。言葉の大切さ、強さ、人の想い、伝えていくこと、感じることの大切さ、私の身近にいる生徒に伝えたいと思いました。(群馬県 50代 教育)

伝えていくこと、
感じることの大切さ

連絡先：岡島龍彦

E-mail: tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp

Tel: 070-6656-8860



◆あなたにしかできないエイズ・性教育とは

主催：(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

岩室紳也

内容:エイズ教育、性教育を行う際に、どうしてもよりいい方法はないかと考えがちです。確かに資料の作り方には上手下手はあるかもしれませんが、聞き手のところに響くメッセージを伝えるには何より、自分自身のところに響いたものは何か気づくことが大切です。あなたにしかできないエイズ・性教育を考えてみました。

来場者感想:

- 小、中、高校生に性教育をする機会がありますが、いつも既存の資料で、自分の言葉が入ってなかったな・・と反省しました。これからは自分の経験もふまえて子供たちに伝えたいと思いました。(神奈川県 20代 保健医療)
- 事例の中で、昔同じような思いをしたことを思い出しました。なんで私だけこんなに苦しい思いをしなくちゃいけないんだろうと思っていましたが、他の人も同じような思いで苦しんでいたのかと、苦しい思い出が少し消えました。(東京都 20代 学生)
- 先生の言葉は全て、決して「ワルモノ」をつくらず“他者のコト”として見ず、自分にもおこるかもしれない という気持ちで語るということが徹底していたと思います。いつか私もそうなりたいです。自分自身の行動、言動がいかにか他人ごとになっているかを反省しました。(東京都 20代 学生)
- 「自分の中のイメージ」をいかに大事にし、それを伝える事でコミュニケーションしていくことの大切さを感じました。先生の「何かを感じてほしい」と思う講演会のスタイルが好きです。(東京都 20代)
- 今日、保健師として勉強できればいいな～と思って参加しましたが、それ以上に、人生や生き方について考えさせられ学べたと思います。同じ経験や、人生で失敗したことがあったとしても、周囲の人の存在、支えてくれる人がいるかないかでその人の人生は変わってしまうと思います。私も誰かの支えやきっかけになれば うれしいです。(大阪府 20代 保健医療)
- 性教育をしていく立場にいます。自分が習ってきた性教育で本当にいいのだろうかと思い、今回のフォーラムに何かヒントをもらおうと参加しました。本当に得るものがたくさんでした。まだまだ勉強が足りませんが、子供たちの心にひびく性教育ができるよう努力していきます。ありがとうございました。(北海道 20代 教育)
- 知識を大上段でつめこむ講演と違って、事例や経験を組み込んだ強く心に響く講演だと思います。実際にAIDS患者や中学生と接していないと実感できない事をたくさん教えて頂き、知識だけでは駄目だと痛感しました。私もしよせん他人ごとでした。医療職なので下手に知識があるのも反対に足をひっぱっています。今日より、己のコミュニケーション能力を見直してみようと思います。(神奈川県 30代 保健医療)
- “関係性”というものに関心を持っている時期だったのでちょうどよかった。自分の体験なんてたいしたことないし、人の役に立たないと思っていましたが つながることができるような気がしてきました。(東京都 30代 NGO/NPO)
- 性教育は人間関係の学びであることが理解できた。(30代 保健医療)
- 知識、スローガンでなく、事例「自分は～」というメッセージを伝える事の大切さがわかりました。なぜ、今まで伝わる教育ができなかったのかがわかった気がしました。これからは自分のことば、メッセージで語っていきたいと思いました。(新潟県 40代 保健医療)

連絡先: 岩室紳也 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15階
(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

Tel: 03-5210-2921 Fax: 03-5210-2924

紳也's HP: <http://iwamuro.jp/>から講演の申し込みができます



性教育は
人間関係の学び

◆世界がもし100人の村だったら

~HIV/AIDSバージョン



主催：横浜YMCA ACT

YMCA ACTのボランティアメンバー・スタッフからなるワークショップチーム。

内容：「もし世界が100人の村だったら」のワークショップをベースとして「データからHIV/AIDSを体感するワークショップ」をテーマに展開。他人ごとではない問題として参加者とともに考える機会を持ちたいという思いから活動を続けている。

来場者感想：

- とても勉強になりました。日々の生活につなげていきたいです。★期待:これからも新しい参加型があるといいです。(20代 保健医療)
- ワークショップは人数がそろわないとなかなか盛り上がりがないところをボランティアスタッフの皆さんに入って頂き、十数人でプログラムを進行(展開)することができたのが良かったと思います。ワークショップは皆で学んでいこう、また皆で考えていこうという姿勢が新たな発見や気づきがあり、面白いと思います。(20代 学生)
- 参加型WSなのでタイクツしないです。★期待:問題提起(30代 NGO/NPO)
- データの提示が多く、ポイントが少しばらけてしまうと感じました。全体の流れはとても参考になりました。(30代 保健医療)
- 参加型プログラムで面白かったです。数字を使っての説明も分かり易かったし、他の参加者の方の声も聞けてよかったです。(40代 その他 公務員)

連絡先：横浜YMCA ACT

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-25-1

Tel: 045-316-1881 Fax: 045-314-6805,

E-mail: madoka_saito@is.yokohama-ymca.or.jp

◆「映像で振り返る1990年代のエイズキャンペーン」

主催：「性を語る会」(代表 北沢 杏子)



内容：厚労省AIDS研究班の発表によると、わが国に於けるHIV感染者は、毎年1,000人余の増加をたどっており、現在先進国で増加しているのは日本だけ。「AIDS文化フォーラム in 横浜」を起点として“全国的な運動を展開するきっかけに”と考え、1990年代のあの熱いAIDSキャンペーンの模様をアーニ出版が企画、私(北沢杏子)が制作した映像作品『薬害エイズと戦う川田龍平と若者たち』『同性愛の権利とエイズ——大石敏寛さんは語る』他を上映。1995年、厚労省の建物を“人間の鎖”で取り囲もうと全国から集まった3,500人の人々のキャンペーン、1994年の「国際AIDS・STD会議」の実写や代々木公園から都庁までの数千人の行進、キャンドルを手にした夜のキャンペーンなど視覚に訴えた。参加者たちの感想文には、「1990年代の運動から20年——若い人々が多くなり、日本での運動も下火になっている現在、歴史を知り、事実を知ることが大切だと思った」「過去の運動が現在に繋がっていることがわかった」「薬害エイズの研究をしている高校生、川田龍平さんの若き日の映像にドキドキした」などが寄せられた。

連絡先：アーニ出版・性を語る会

〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-5-6

Tel: 03-3708-7326 Fax: 03-3708-7324

E-mail: taira@ahni.co.jp

過去の運動が
現在に繋がっている

他人ごと？！

◆ 『空とコムローイ ～タイ、コンティップ村のこどもたち』 上映会&トークイベント

主催：横浜YMCA かながわレッドリボンプラザ

内容：タイ最北端の町メーサイにある施設・通称コンティップ村を舞台としたドキュメンタリー映画。エイズ孤児である幼いファの成長を軸に、共に生きる周囲の人々の温かさが伝わってきました。上映後の三浦淳子監督によるトークイベントでは、「私たちにできることは何か特別なことをする支援ではなく、コンティップ村の人たちのように、他人に心を開き、他人のこを受け入れる。そして家族や身近な人を大切にすることが一番大切である」という監督からのメッセージが伝えられました。また、会場からは、映画の背景やタイのHIV/AIDSの状況・性教育等について質問が寄せられました。

来場者感想：

- とてもステキな映画でした。人の温もりが伝わってきて、温かい気持ちになりました。その反面、エイズや人身売買などの恐ろしさをあらためて感じました。いろんな人に観てほしいです。
- このような映画を観る機会はあまりないので、とても参考になりました。人との出会い、そこからの影響など、動かないと得られないものがあるということが伝わりました。ありがとうございます。
- ゆったりとした自然の中で生活が人をやさしくさせるということが、今の世の中には失われつつあるように思う。

連絡先： かながわレッドリボンプラザ

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内

Tel: 045-662-3721 Fax: 0245-651-0169

◆ 『10代の予防啓発活動の実際と後方支援』

主催：エイズ予防財団ティーンエイジャー支援事業事務局

内容：エイズ予防財団の助成事業の報告を一般の方々に向けて行いました。本事業は20年度から10代を対象としたHIV予防啓発に従事する団体の助成を目的にスタートしました。エイズ予防プログラムへの財団と企業の協働支援として、助成団体の活動の促進と育成に取り組んでいます。当日は、今年度助成の5団体からの活動報告の後に、この活動を後方支援する側からの活動を説明しました。

5団体は、IWATE:生と性及びエイズ教育を考える会(岩手県)、神奈川性・エイズ教育実践研究会(神奈川県)、ピアっ子あいち(愛知県)、えんばわめんと堺(大阪府)、プロジェクト コネクト(東京都)で、地域性を踏まえつつ展開している実践の内容が具体的に説明されました。引き続き、各活動の支援を目的とした選考過程や評価過程について、選考委員や企業の担当者から報告を受けました。発表が5団体であったため時間的に制限があり、事後にはもっと団体の実践がじっくり聴きたかったという声が寄せられ、また最後の討議の際は一般の方々の参加がしづらい流れとなり、発表を行う上での改良点が明らかになりました。

連絡先：エイズ予防財団

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 1-3-12 水道橋ビル5階

Tel: 03-5259-1811 Fax: 03-5259-1812

E-mail: yanaga@jfap.or.jp

事業紹介: <http://www.jfap.or.jp/news/jnj/index.html>



他人に心を開き、
他人のこを受け入れる



◆腹話術と原始人ゲームー親子の教育プログラムー

主催：JOINT HEART (島山雅行・中井幸永・人形の「えっちゃん」)

思いのまま感じたことを伝えるために腹話術を用いたコミュニケーション方法を分かりやすく広める活動をおこないます。

内容：[はじめに]エイズや結核は現在でも多くの健康被害者を出しており軽視できません。予防することはできないのでしょうか。

[目的]①健康腹話術の普及②行政にできない隙間をうめる。③親子の教育プログラム

[対象者]①小学生②中学生③青少年④高齢者⑤その他幼児・妊婦など

[ねらい]①うなずきやあいづちだけでなく子どもを正しく理解して子どもの事を知ろうと努力する態度を示してあげる。②些細な(ささいな)事でも受け止めてあげられる親子の関係づくり。

[プログラム] 訊く・聞く・聴く

①教育プログラムvol.1:お互いを知ろうゲーム。

②教育プログラムvol.2:他己紹介ゲーム。

③わらってげんきになろう。みんなで腹話術にチャレンジ！！

④教育プログラムvol.3:原始人ゲーム ジェスチャーだけで人に伝える事ができますか。

[評価] ①アンケート:総計11名回収。10代～50代まで参加。

生徒・学生・教育関係・福祉関係・医療関係者が参加。

内容の評価は「わかりやすかった」9名。「難しかった」1名。

[今回の感想]他己紹介はいろんな人の事を聞いてよかった。原始人ゲームはジェスチャーだけで人に伝える事が難しいが体を動かしてよかった。参加型がよい。腹話術に関心できた。「わりばし」をくわえて腹話術の発声練習をしたい。新しいコミュニケーション方法を知った。大変面白かった。子どもとの関わり方が学べた。初対面の人とコミュニケーションをとる事の大切さがわかった。相手の状況を考えながら話しかける事が大切である事を確認した。プログラムの時間は適切でした。

まとめ:HEALTHY HAPPY FORUM

参加者に人形との会話を実際に経験してもらいました。今回は原始人ゲームを取り入れて腹話術を広げました。来年もがんばって参加いたします。

連絡先: 代表者 島山雅行

Fax: 0743-78-9841

E-mail: m-hatake@m4.kcn.ne.jp

新しい
コミュニケーション方法
を知った



他人ごと？！

◆どうしてですか・性・エイズ教育

主催：神奈川県大和保健福祉事務所 保健予防課 富岡順子
神奈川県三崎保健福祉事務所 保健予防課 永井和江

内容：保健師の講演実践例を分科会で再現する形で紹介した。パワーポイントを使用。

講演例1:内容は『性感染症とエイズ』。対象は高校生以上。講師と参加者が楽しく盛り上がるQ&Aを中心とした構成。希望者に配布。(富岡)

講演例2:内容は『エイズのこと 性感染症のこと』。対象は中学生。講演会の時に、保健師として大事にしている内容を中心とした構成。(永井)



来場者感想：

- 分かりやすいスライド、クイズもあり、笑いも入りとても良かった。(10代 学生)
- 大変参考になった。高校生への健康教育が一方的で「病気のこわさ」「予防」という内容になっていたが、これを機に練り直してみたい。(30代 保健医療)
- 性エイズ教育を通して、自分を大切にする他人を大切にするということを考える良い機会だと思う。是非学校教育に広げられたらと思った。親の知識を得る機会としても増えるといい。(20代 教育)
- 何を伝えたいかと学校側が何を求めているのか、きちんと打ち合わせしながら行っていくことが大切だと思った。(40代 保健医療)

連絡先：神奈川県大和保健福祉事務所 保健予防課 富岡順子

〒242-0021 大和市中央1-5-26

Tel: 046-261-2948 内31~32 E-mail: tomioka.cxby@pref.kanagawa.jp

神奈川県三崎保健福祉事務所 保健予防課 永井和江

〒238-0221 三浦市三崎町六合32

Tel: 046-882-6811 内333 E-mail: nagai.hv9m@pref.kanagawa.jp

親の知識を得る機会

◆HAATASワークショップ

～あなたならどうする!? ロールプレイ～

主催：HAATAS(シェア・エイズボランティアチーム)

HAATAS(ハータス)は特定非営利活動法人シェア＝国際保健市民協力市民の会のエイズボランティアチームです。勉強会やイベントでのワークショップを通して、国内向けにエイズ予防啓発を行っています。学生と社会人が共に「エイズについて楽しく学ぶ」をモットーに活動しています。

内容：一方的に来場者が聞くのではなく、来場者と一緒に考え「他人ごと」から「自分ごと」の意識につなげるため、来場者参加型ワークショップとしてロールプレイを行いました。HAATASが用意した3つのシナリオをもとにロールプレイ(短い劇)を来場者に演じてもらい、その後、各シナリオについて参加者全員でトークディスカッションをしました。

来場者感想：

- 他人ごとから自分ごと(?)に少しでもなったように感じることができました。ありがとうございました。(神奈川県 10代 女性 学生)
- シチュエーションを行い皆で話し合うことによって様々な発見や考えを聞く事ができた。環境によってどう対応していくか、周囲に知られたらどうしようなど不安になると思う。(神奈川県 20代 男性 保健師)
- もし自分が感染していたら・・・夫には話す。そして検査に行ってもらおう。子ども達には数年後かな(話すのは)(東京都 40代 女性)



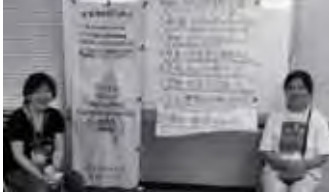
連絡先：シェア＝国際保健市民協力市民の会

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル5階 Tel: 03-5807-7581

◆援助職のためのAIDSと性のワークショップ入門講座

主催：エイズを伝えるネットワーク (TENCAI)

HIV/AIDSと性の健康教育を通じて、多様な価値観をつなぐコミュニケーションを促すワークショップを企画・開催しています。



内容：穏やかな雰囲気の中、それぞれがAIDSの問題に向かい合う中でどんな困難を感じているかをゆる〜く話し合い共有するワークショップになりました。AIDSの「他人ごと」度合いが人によりまちまちで、その距離のとり方の間の「ズレ」が、困難として認識されるのだと感じました。参加者の困難さを一部ご紹介します。

来場者感想：

- 職場の上司(50~60代男性)の理解度にあわせていると仕事にならない・・・。
- 小学校5年理科教科書、命の誕生(人の誕生)で、母親だけ登場。他の動物はオス、メスあり。これって変。
- HIV/AIDSで何をすればよいのかわからない。実はあまり現実感がない。
- 味方を探すのが難しい・・・とにかく問題をおこさないように！！でいいの？
- 良いからって自分がよく知らないものを他人に勧めるのはどうなのでしょう？コンドームとかマンモグラフィとか・・・
- 講師に行った先で教員、保健師さんに、質問対応マニュアルを求められます。気持ちを聞いて〜。と伝えたのに・・・。もつつらいのは、話したあとに校長先生がNoSexとか、清く、正しく、美しく、この学校からAIDSを出さないような、という挨拶をされたとき。

連絡先：エイズを伝えるネットワーク(TENCAI)

〒101-0021千代田区外神田2-1-11 松住ビル2F B室 わかばてい2内

E-mail: mail@tencai.org

◆今新たにAIDS対策における 保健師の役割を検討しよう！

主催：PNY [ぴにい Peer Network Yamagata]

(性問題対策を考える保健師の会)

PHA、NGO、学生・PTA・教育者、医療関係者・行政等、様々なメンバーが対等な立場で共にAIDS/STIの予防対策を考える会です。

内容：AIDS対策について保健行政はどう進めるべきか、保健師の感染症対策・母子保健・精神保健・地域組織活動支援・健康づくり・普及啓発・企画等の役割を持つ保健師の横のつながりの強化等も含め検討していきました。

来場者感想：

- 全員で有意義な話し合いができ密度の濃いセッションだった。
- 他の自治体の保健師の方や学生の話聞くことができ、自分が現場に戻って何ができるのか、何からできるのか考えて実行していきたいと思った。
- 保健師の仕事の必要性重要性を感じている。保健師から見た問題や解決方法等聞くことができ大変楽しかった。

等の感想をいただきました。今後も継続した活動をしていきたいと思います。

わたらい

連絡先：代表 渡會睦子

〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17 東京医療保健大学内

E-mail: mutsuko@mub.biglobe.ne.jp

ゆる〜く
話し合い共有する



◆企業の社会的責任とHIV/AIDS問題

主催：ANFA日本エイズ産学予防協会

増え続けるHIV/AIDSおよび性感染症に対して、まわりの社会が理解と予防、知識を深めることができるように啓発やアドボカシー（提言活動）に関する事業を行うと共に、企業に対して、企業の社会的責任としてこれらの課題や性感染症の予防対策に取り組み、企業の社会性をより高めることが出来るような提案を行っています。

内容：日本の感染症研究の第一人者である、岩本愛吉氏（東京大学医科学研究所 先端医療研究センター・感染症分野 教授）をお迎えし、セミナーを開催しました。プロジェクターを使用し、具体的な数字を用いて、エイズの歴史と現状を詳しく、教えていただきました。また、グローバルなお話も多く、他国と比べて、日本の現状や課題を考える貴重なきっかけになったと思います。



来場者感想：

- 男性の同性愛の感染者が、都市で増えている事が分かりました。でも、異性愛でも感染するという事も忘れてはいけないと思います。
- 日本の感染症の中心でご活躍の方のお話で、薬剤や世界情勢について、とても参考になりました。
- アジア、アフリカの状況から、日本を見ることが出来、日本の現状をよく知ることが出来ました。
- 最新情報やグローバルな話は、大変参考になりました。
- 最初は、二時間のプログラムは長いと思いましたが、大変興味深いお話で、学校の90分授業よりも短く感じました。他国では積極的にエイズ問題に取り組んでいるのに、日本は遅れていると感じました。学校の友達や青少年協会の友人と、話し合いをして、意識を高めていきたいと思っています。

連絡先：日本エイズ産学予防協会

〒102-0082

東京都千代田区一番町13-6 一番町デュープレックスタワー301

E-mail: info@anfajp.info

※企業や団体の皆様、出張エイズセミナーを開催します。

お気軽にお問い合わせ下さい。

企業の
社会的責任として



◆相談・支援で役立つ

HIV専門カウンセラー派遣制度の実際

主催：神奈川県保健福祉部健康増進課

大阪医療センター臨床心理室 森田眞子

神奈川県保健福祉部健康増進課 岡本未帆



神奈川県のHIV専門派遣カウンセラー(心理職)は、病院・保健福祉事務所等に、火～金曜日で可能な限りご都合に合わせて伺い、患者様とその周囲の方からの様々なご相談に無料で応じています。派遣をご希望の場合、主治医又は担当看護師、もしくは相談先保健福祉事務所の担当保健師を通してご依頼を賜ります。

内容: 神奈川県のHIV専門派遣カウンセラーの前任と現任が、HIVカウンセリングの背景と経緯、全国自治体の制度と神奈川県内の派遣制度の比較、活動の実際と課題等を語らせていただきました。イメージしやすいようセッション形式で進行し、参加者の方にも質疑応答でご参加いただきました。

来場者感想:

- 相談が身近になり、こんな事で問い合わせていいのかと教えられた。(保健医療)
- 制度を理解して、利用のための環境整備等を考えなければと思った。(保健医療)
- 派遣制度を知らない患者さん、医療従事者がまだまだ多いと思う。ただ、まだ偏見も多い病気、広く知らせていくことに難しさがあると感じる。(保健医療)
- 院内、保健所等はまだ支援体制があることを患者に伝えてほしい。(NGO)
- 支援する側のカンファレンスやコンサルテーションにも利用可能ということで、教育関係チームで支援に困る時に相談できたら嬉しい。母子感染の子供の思春期の性、心の発達について連携できれば。(教育)
- 大学で臨床心理士を目指しているので、本当に良い学びになった。(学生)

もっと伝えてほしい

連絡先: 神奈川県保健福祉部健康増進課エイズ・感染症対策班 Tel: 045-210-4793



「医療」の視点から

他人ごと？！

◆HIV感染妊婦とその出生児の調査・解析 および診療・支援体制の整備に関する総合的研究

主催：財団法人エイズ予防財団

内容：「元気な赤ちゃんを、そして健やかな発育を～妊婦さんとHIV感染症～」というテーマで、財団法人エイズ予防財団 島尾忠男会長と研究代表者の挨拶のあと、4人の演者が講演しました。喜多恒和 帝京大学産婦人科准教授「HIVと妊娠～世界と日本の現状」、外川正生 大阪市立総合医療センター小児科部長「感染妊婦から生まれた児とその問題点」、辻麻理子 九州医療センター臨床心理士(財)エイズ予防財団R.R「生まれてきた子のサポート」、塚原優己 国立成育医療センター周産期科医長は「産科医からのメッセージ」として妊婦のサポート体制を中心に発表をおこないました。

来場者感想：

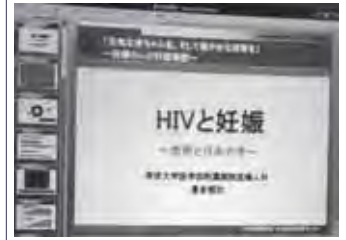
- わが国においては、妊娠中～出生後の適切な予防対策でHIV母子感染は確実に予防可能となっていますが、たとえ母子感染が予防されても生まれた児に対するサポートの必要なケースも多く、社会や学校を巻き込んだ解決策が必要であると考えさせられました。

連絡先： HIV母子対策研究班事務局
(担当：鈴木)

〒983-8520

仙台市宮城野区宮城野2-8-8

仙台医療センター Tel: 022-293-1111



元気な赤ちゃんを

◆HIV診療の最新事情

横浜市立市民病院感染症内科医師 倉井華子

主催：神奈川県保健福祉部健康増進課

内容：HIVが発見され約30年が経過した。その間に診断、治療は進歩し「もはや死ぬ病気ではない」といわれるようになった。治療薬は飲む回数、錠剤数に配慮がされるようになり、より副作用の少ない薬が選ばれるようになった。薬を内服しながら、HIV非感染者と変わらない日常生活、寿命をおくれるようになった。それに伴い、高齢化の問題が出てきている。また日和見感染症の治療がうまくいくようになり、死亡原因として悪性腫瘍や心疾患が問題となってきている。HIV感染者においては今後喫煙や高血圧、高脂血症、糖尿病といった生活習慣病に対する指導が重要となってくると考える。

来場者感想：

- HIVに感染しても“大変な感染症”というイメージがなくなってよかった。(教育)
- いろいろの分野との広がりメニューが増えているが、「今」の情報を知る基本を踏まえたプログラムを大切に。
- 現場での治療情報を知ることができてよかった。市民病院だけで500人以上も患者さんがいらっしやるとは・・・これからは患者数が増えることによる問題もあるのだろう。(教育)
- 治療による副作用のみでなく、患者さんが死亡しなくなったことによる、生活習慣病の問題などわかりやすかった。感染や治療のみでなく生活習慣の支援、福祉施設など様々な視点で考えていかないといけないことがよくわかった。(保健医療)



連絡先： 神奈川県保健福祉部健康増進課エイズ・感染症対策班 Tel: 045-210-4793

◆AIDSの感染症の近未来

横浜市立市民病院 感染症内科部長 立川夏夫

主催：AIDSネットワーク横浜

93年2月設立 エイズの予防・啓発を目的とし、電話相談、出前講座、人材養成のためボランティア学校を毎年開催

内容：冒頭マックプリントップのトウモロコシの研究から、遺伝子、レトロウイルス、治療薬の変遷について説明、HAARTにより通院も3ヶ月に1度ですみ今やエイズは管理可能な慢性疾患である。早期発見ほど生存率が高い。患者自身が主治医である。仕事は継続することが述べられた。最後に白血病の感染者に長期未発病者の骨髄移植が行われ、ウイルスが激減した最新の1例の劇的な発表があった。



来場者感想：

- ズブの素人にもわかるように噛み砕いたプレゼンでとても為になりました
- これまでにどのような薬が開発され、患者さんにどのような影響を与えてきたのか知ることが出来ました。治療を受ける際には環境を整えたり、告知の有無など様々な点へ視野を広げていく必要があるとわかりました。
- 難しい所もあったのですが、後半は面白く、興味深きかせていただきました。良かったです。
- HIV薬の歴史から様々な幅広い話を判りやすく話していただき、ありがとうございました。感染者の方々と実際の接触の中からのお話が聞けて良かったです。水分を取るようにしたいと思います。
- 新しい抗HIV薬の勉強、管理可能な病気になりつつあることがわかりました。来年もこのような夢のある話を期待します。

連絡先： 〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F

横浜AIDS市民活動センター内 AIDSネットワーク横浜

E-mail: any@netpro.ne.jp URL: <http://www.netpro.ne.jp/~any/>

管理可能な
病気になりつつある

◆歯科診療の実際

主催：カスヤ歯科クリニック 糟谷潤

内容：伝え手の未熟さ故に、参加者の皆さまのお力添えを頂戴しました。一般の方からの患者様としての意見・医学部学生様からの意見・保健行政を司る方の意見・医科の先生からの意見・同業歯科医の方からの意見が出て、少ないながらも充実した汗だくの二時間を過ごしました。皆さまのご意見を糧に、また日々の診療に取り組んで参ります。参加者の皆様から学びをさせていただきました。興味をもって頂いた事、此処に深く感謝いたします。

連絡先： カスヤ歯科クリニック

〒105-0014東京都港区芝2-29-9 榊原ビル2階

E-mail: makesmile@docomo.ne.jp



他人ごと？！

◆アフリカ感ジャーニー届け！アフリカのチカラ

主催：Friends of God's Golden Acre Japan

南アフリカにある孤児院の支援／アフリカに対する理解促進／HIV-AIDS啓発活動

内容：発表ではアフリカを身近に感じてもらうことを目的としたワークショップを行なった。いわゆる団体活動発表ではなく、アフリカの現状を、アクティビティを通して知ってもらう仕掛けを施したため、一般的な発表とは一味違ったものとなり、ご好評もいただけた。参加者が少人数だったこともあり、各参加者の質問やそれから発展する話などを丁寧にフォローすることができたので、大変有益な活動となった。アフリカとエイズというと、今回のテーマにあるような「他人ごと」と捉えてしまうことが多いので、今回の活動を通じてより身近に、より親近感を持つきっかけを作れていけば幸いである。いかに 이슈を身近に持っていくことができるかは、想像力に拠るところが大きいので、アフリカやAIDSの課題に想いを馳せ、これからの活動の助けになれば、嬉しい限りである。



連絡先： Friends of God's Golden Acre Japan 津曲智明
〒223-0061 神奈川県横浜市港北区日吉3-9-9加藤ハイツ303
Tel: 090-5194-7709 E-mail: spacemantomo@hotmail.com

◆国際ボランティア～初めの一步を踏み出して

主催：横浜YMCA かながわレッドリボンプラザ

横浜YMCAは1995年から神奈川県と協働し、横浜中央YMCA・NPOサポートセンター内に、エイズボランティア活動拠点としてレッドリボンプラザを設置しています。

内容：タイのエイズ孤児施設で長期滞在ボランティアをした福田倫子さんは、帰国後もNGOでのインターン活動を通してHIV/AIDSや人身売買といった問題に取り組んでいます。また、学生時代からエイズ孤児施設や児童保護施設を訪問している杉友香奈子さんは、社会人になってからも、自分のペースでボランティア活動を続けています。今回は、国際ボランティアに踏み出すきっかけや現地での経験、帰国後や現在続けているボランティア活動についてお話いただきました。その後、参加者とのフリーディスカッションで、タイのHIV/AIDSの状況や医療制度、日本の青少年のボランティアに対する意識について活発に意見が交わされました。

来場者感想：

- 現地での体験の後のことを聞け、とても楽しかったです。いろいろな質問に答えて頂きありがとうございました。
- タイでのエイズ孤児の人たちのことや、ハッピーホームという施設での暮らしがわかってよかったです。
- 講座を聴いていて、とてもためになりました。できれば私もボランティアに参加したいなと思いました。
- 最後の話し合いが楽しかったです。現地で経験のある方のお話を伺えたことがよかったです。
- 海外でのボランティア体験を通して感じた率直な意見や感想を聞くことができ、とても楽しかったです。

連絡先： かながわレッドリボンプラザ
〒231-8458横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内
Tel: 045-662-3721 Fax: 045-651-0169



できれば私も
ボランティアに
参加したいなと
思いました

◆南アフリカ共和国でエイズと共に生きる

主催：ニバルレキレ事務局

南アフリカ共和国のエイズとともに生きる人々の活動支援を目的としています。貧困地区を中心に地元の人々のネットワークづくりを行い、住民による主体的なプロジェクトを支援していきます。個別サポートやグループセラピーでの心のケアも行っています。日本国内では、エイズ遺児の写真展と絵画展を巡回し、ワークショップの開催による「伝える」活動をしています。



内容：2010年にサッカーワールドカップを控えた南アフリカ共和国。HIV感染者数は現在もなお500万人以上で推移し、平均寿命も40代で推移しています。2004年から少しずつARV治療の無料実施が広まっており、人々の間には希望も生まれ、コミュニティに根付いたHIVエイズや貧困の問題にとりくむ活動も盛んに行われ続けています。アフリカの中で群を抜く豊かさも手にしている南アフリカ。貧富の大きな格差の中で生きることがどういうことなのか、過去のアパルトヘイトの歴史の負の遺産は全て乗り越えることができているのか。人々の日々の暮らしを具体的に紹介しながら、皆さんに関心を持ち、もっと知りたい、なぜなのか知りたい、自分にできることは何だろうか？といった心の旅をしていただけるような話し合いをしました。

来場者感想：

- 南アフリカのことは全く知らなかったもので、知れて良かったです。アフリカにも携帯電話があるんだ！！と少し驚きました。これからも、自分にできること、募金は続けようと思います。ありがとうございました。(神奈川県 20代)
- アフリカの中では先進国だと思っていたので、南アの現状が知れ、おもしろかったです。(千葉県 20代 保健医療)
- 地域の実情に即した活動が必要なことは日本もアフリカも一緒だと感じました。ありがとうございました。(30代 保健医療)
- 初めてプログラムに参加させて頂きました。HIV/AIDS、南アフリカに関してはTVや24時間テレビ等、テレビの特集で見たり聞いたりする程度でした。子育てしたり、保育に関わる中で、日本では考えられない時間だと思いました。自分に今なにが出来るのかとも難しく、すぐに募金となってしまうがち、もちろんそれも協力していかねばならないと思います。人々に伝えていくことも一つの協力につながって行けばと思います。(神奈川県 40代 教育)
- ニバルレキレのされている活動を否定するつもりはありませんし、小山さんのお考えは非常に素敵だと思います。ただ、話が少し飛びとびで、話の趣旨が分からない部分がありました。というか、南アフリカのお話であって、エイズのお話があまりなかった(少なくとも私は南アのエイズについて感染率が高い、CD4が200以上で治療は公費で可能と言うことぐらいしか分かりませんでした)かな、と思います。辛口なコメントで申し訳ありません。(東京都 20代 学生)
- 途中参加で話についていけず、残念だった。(東京都 40代 HIV患者)

連絡先：ニバルレキレ事務局 〒206-0025 東京都多摩市永山3-1-14-205

Tel: 090-1707-2296 E-mail ngibalulekile@rocketmail.com

～ニバルレキレ展(写真・絵画展)の問合わせは TEL:03-3834-6902 AJF齋藤まで～

募金は続けよう



他人ごと?!

◆全体会・閉会式「他人ごと?! から 自分ごとへ」

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

県立横浜平沼高校演劇部+ワーク参加者+岡島龍彦

HIV/AIDSに影響を受けた様々な人たちの言葉を朗読し、AIDSを他人ごとから自分自身に身近な事柄とした。

全体会:ワークショップ(403室13:00-15:00)に参加した演劇部生徒と一般参加者で、群読も交えた約25分の朗読劇場を実施した。

その後の読み手の感想では、「他人(ひと)ごと」から、「自分ごと」へを確認した。

閉会式:運営委員、ボランティア、発表者、全国各地からの参加者など、フォーラムを支える様々な人たちの声を会場から拾い、3日間の振り返りと来年の再会を約束した。

来場者感想:

- HIVポジティブの方の話(なまの声)を朗読してくれるっていうのは、すごく貴重な機会だと思いました。(神奈川県 10代 学生)
- H.I.Voiceについて初めて知りました。とても思いが伝わりやすい方法だと感じました。(神奈川県 20代 学生)
- 単純なプログラムではあるけれど、深いと感じた。当事者の想いというのは、20年近くたっても色あせないのだ、ということ強く感じられた。(神奈川県 20代 環境教育施設職員)
- 感染者からの手紙は、やはり当事者というだけあって、一言、一言の重みがありました。(東京都 20代 学生)
- 学生たちが話すことで、朗読の色々が響いてきました。また色々な人が出ることで幅が広がった。(東京都 20代 学生)
- 朗読もとても上手だったし、高校生が行うということで、メッセージもとても心に響きました。(東京都 20代 学生)
- 初めての参加でしたが、非常に有意義な3日間を送ることができました。ありがとうございました。(東京都 20代 学生)
- たくさんの学びをありがとうございました。来年も来ます!(北海道 20代 教育)
- HIV陽性者の声を朗読という形で聞けて良かったです。心にひびきました。(東京都 20代 学生)
- 言葉を読んでもらい、文字では感じないことが伝わった気がします。ただ、文字では、書いた人の気持ちは100%は伝わらない。そんな気がしました。同じ文章でも、私は違う気持ちをこめてしまいます。(千葉県 20代 教育)
- エナジー(アイスブレイク)よかったです。(群馬県 10代)
- Voice actを聴いて、時間が過ぎていることに気付かされた。HIVと携帯とデートDVと外国人労働者といういろいろ頭の中でぐるぐるしてます。(神奈川県 30代)
- 朗読する方がとても気持ちがこもっていて、心に強く伝わりました。感染者の人たちやその周りの人たちは前向きに一生懸命に生きていることが、よくわかりました。今回のAIDSフォーラムで「他人ごと?」とはどういうことかetc.いろいろ考えるきっかけとなりました。(神奈川県 30代 保育士)
- AIDSについて、いろいろ知っているつもりでした。けれど、どこか心の隅に「自分は大丈夫」という根拠のない自信がありました。でも、そんなことはなかった。今回の講演を聞いて、他人ごとではいけないと思いました。自分が感染してからでは遅いの、皆、自分が感染してからでない自分のこととして真剣に向き合えないことが多いと思う。(東京都 30代 保健医療)
- 閉会式の朗読もすてきでした。声ってすごい力を持っているんですね。(東京都 30代 NGO/NPO)
- ありがとうございました。(広島県 30代 保健医療)



来年の再会を約束

- このまま、このフォーラムを続けてください。(北海道 30代 教育)
- 楽しかったです。いろいろ悩むこともあるけど、がんばれるよん(東京都 40代 保健医療)
- 生徒さん方、とてもすてきでしたよ! また、涙が出てしまいました。文章を書いていた方々を思い出し、HIV感染予防啓発活動への思いを、新たにすることができました。(千葉県 40代 教育 ボランティア団体)
- 今年は閉会式のみ参加でした。朗読とても良かったです。全国からいらしているのですね。もともと多くの方達に広まるといいと思います。(神奈川県 50代)
- 朗読劇場は感動的!(東京都 60代以上、元建設業)
- 皆さん、上手です。内容が、いろいろな人がいる事、いろいろな考えのある事を示してくれました。皆さんも、これを介して、また、進歩してゆくのでしょうか。(60代以上、保健医療)

連絡先: 岡島龍彦

E-mail: tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp Tel: 070-6656-8860



展示プログラム（1階展示会場）

◆横浜AIDS市民活動センター

HIV/AIDSの情報提供、書籍・パネル貸出、ニュースレター発行、HIV/AIDS予防啓発、HIV/AIDS関連活動団体への支援金交付等など行っています。

内容:今年も、横浜AIDS市民活動センターのマスコット“コムちゃん”を引き連れて参加しました。横浜AIDS市民活動センターの活動紹介を掲示したり、無料提供しているパンフレットの紹介や、ニュースレター“おーふん”の配布などを行いました。その他には、平成9年の作成以来、AIDS文化フォーラムなどで配布しているオリジナルのコンドームケース“オーケース”の配布も行いました。今回はピンク色のみの配布となってしまいましたが、来場してくださった方の中には、「去年も貰いました！」と仰ってくださる方や、昨年まで配布していた「クリアホワイト色はないの？」などという声を数々頂きました。AIDS文化フォーラムを通して横浜AIDS市民活動センターや“オーケース”のことを、たくさんの方に知っていただいていることが実感でき、とてもうれしく思いました。開催期間中にいろんな方々と交流がすることができ、とても良い経験をすることが出来ました。

連絡先: 横浜AIDS市民活動センター

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9階

Tel: 045-650-5421 Fax: 045-650-5422

E-mail: info@yaaic.gr.jp、URL: http://www.yaaic.gr.jp



◆カリタスジャパンHIV/AIDSデスク

テーマ: カトリックのHIV/AIDS啓発活動の紹介

HIV/AIDSデスクでは2003年から、主に国内の教会ならびにカトリックの学校に向けた啓発活動を行っています。フォーラムでは3回目の展示です。

内容:カリタスジャパンが属している国際カリタス(Caritas Internationalis)は、UNAIDSやWHOとも共同で1987年から世界規模でHIV/AIDSへの取り組みを推進しています。今回の展示では、これらカリタスの国際的な取り組みもご紹介しました。

8月8日のパネルディスカッション「宗教とエイズを考える Part4」の対談の中で紹介された赤い小冊子『HIV/AIDSと性教育』を頒布しました。2008年の世界エイズデーに発表したメッセージとミニカードをご希望の方にお分けしました。

昨年同様、男女の性別がある2体の人形(オーストラリアから入手)を並べ、来場者との会話のきっかけにしました。

来場者はあまり多くなかったですが、他の展示団体との交流を通して、刺激と励ましを受けました。今後の活動のための元気／原動力／パワーをもらった3日間でした。

連絡先: カリタスジャパン HIV/AIDSデスク

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10

日本カトリック会館

Tel.03-5632-4439 Fax03-5632-4464

E-mail: info@caritas.jp URL: http://www.caritas.jp



元気／原動力／パワー
をもらった3日間

◆ABCD in NARA (畠山雅行・真鍋美江・村田美加・大和英美)

テーマ: がん (乳がん) とエイズとの謎



女性に特有の癌(乳がんや子宮がん)について楽しく学習しながらリプロダクティブヘルス・ライツの理解を広めています。乳がんの予防と早期発見と治療について展示とアンケートによる啓発や第三者評価の実施。

内容: 1)ABCD(ANTI BREST CANCER DISCUSSION CONFERENCE)は、乳がんの予防と早期発見と治療について理解を広めてもらうために「乳房乳がんモデル」の展示とリプロダクティブヘルス・ライツを含めたアンケートによる第三者評価を行いました。2)目的に賛同する人は誰でも参加できます。3)啓発活動を行う。4)乳がん死亡を減らすために各分野の専門家が集い教育・研究・研修を行うものです。

アンケートの結果(総計237名回収):がんアンケート:全問正解は22名(正解率9.2%)。エイズアンケート:全問正解は64名。(正解率27.0%)

がんアンケート正解率が40歳代14.7%、50歳代14.5%と比較的高く、エイズアンケート正解率は4.7%と低い10歳代を除いて20歳代から50歳代までは平均を上回っていました。今後はエイズのみならず女性に特有の癌(乳がんや子宮がん)についても参加者に正しい知識を伝える必要性があると考えられました。

連絡先: 代表者 畠山雅行 Fax: 0743-78-9841 E-mail: m-hatake@m4.kcn.ne.jp

◆ATAC in NARA (田村猛夏・畠山雅行・真鍋美江・村田美加・大和英美)

内容: 1)ATAC(ANTI TUBERCULOSIS ASSOCIATION CONFERENCE)は、結核やエイズやその他感染症をこれ以上広めないために各分野の専門家が集い教育・研究・研修を行うものです。2)目的に賛同する人は誰でも参加できます。3)事例のカンファレンスを行う。4)啓発活動を行う。5)アンケートを取り評価を行う。

アンケートの結果: 総計234名回収。結核アンケート:全問正解は19名(正解率8.1%)
エイズアンケート回収:全問正解は64名。(正解率27.0%)

結核アンケートの正解率は40歳代が18.4%と比較的高く、エイズアンケートでは正解率が4.7%と低い10歳代を除いて20歳代から50歳代までは平均を上回っていました。

今後はエイズのみならずその他の性行為感染症や結核などの感染症についても参加者に正しい知識を伝える必要性があると考えられました。

連絡先: 代表者 畠山雅行 Fax: 0743-78-9841
E-mail: m-hatake@m4.kcn.ne.jp

◆アーニ出版・性を語る会

内容: アーニ出版発行のエイズ教育、性教育、薬物防止教育等の絵本、書籍、ビデオ、教材の展示

連絡先: 「アーニ出版・性を語る会」
〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-5-6
Tel: 03-3708-7326 Fax: 03-3708-7324
E-mail: taira@ahni.co.jp



アンケートの
分析と評価

◆アジアの女性と子どもネットワーク

アジアの中でも社会的に弱い立場にある女性と子どもの権利を守るための活動を教育支援を中心に続けている

内容: 団体設立当初から続けているタイ・チェンマイのAIDS孤児支援の様子や現状をパネル展示やリーフレットで紹介した。また、HIV/AIDSが拡大する背景にある山岳民族の現状を知らせました。彼らの持つ素晴らしい刺繍やアップリケ・織物の技術を活かしたフェアトレード商品を紹介し、多くの方に手にっていただき、いろいろ話もできました。HIV/AIDS感染の遠因でもある貧困等のため食事にも満足に取れないチェンライのアカ族の村のチャイルドセンターの子どもたちへの給食支援キャンペーン「おなかいっぱいプロジェクト」のTシャツもイラストがかわいいと大好評でした。

多くの方に活動へのご理解と関心を寄せていただき、感謝しています。これからも私たちは社会的に「弱い立場にある女性や子どもたちの権利を守る活動を続けてまいります。これからもご協力くださいますようお願い申し上げます。

今年も「AIDS文化フォーラム in 横浜」に参加させていただき、ありがとうございました。



フェアトレード商品

連絡先: アジアの女性と子どもネットワーク

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内

Tel: 045-650-5430, Fax: 045-650-5430

E-mail: awc@h6.dion.ne.jp

URL: <http://www.awcnetwork.org>

◆横浜YMCA かながわレッドリボンプラザ

テーマ: タイ、HIV/AIDSと共に生きる子どもたち

横浜YMCAは1995年から神奈川県と協働し、横浜中央YMCA・NPOサポートセンター内に、エイズボランティア活動拠点としてレッドリボンプラザを設置しています。青少年から一般社会人まで幅広い層を対象にボランティア育成講座を開催するほか、ニュースレターを発行しています。

内容: タイ・YMCAハッピーホームの紹介

バンコク近郊ナコンパトムにあるエイズ孤児ケアセンター・ハッピーホーム。たくましく生きる子どもたちの自然な様子を捉えた写真展示の他、子どもたちが作成している手工芸品の紹介・販売をしました。また、レッドリボンプラザが行っているエイズボランティア育成講座の案内や、関連イベントの紹介を行いました。ブースの運営にはエイズボランティア育成講座受講生や講師の方がボランティアとして携わっていただきました。

連絡先: かながわレッドリボンプラザ

〒231-8458横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内

Tel: 045-662-3721 Fax: 045-651-0169



◆希望の家を支える会

「希望の家」は、タイのチェンマイ近郊にある、親をエイズや麻薬中毒、貧困などで失ったタイ山岳民族の子供たちを保護し、教育の機会を与えるための養護施設です。

- 内容：1) 施設での子どもたちの様子や山岳民族での活動の写真の展示。
2) 子どもたちの作ったキーホルダーやポストカードの販売。
3) 「希望の家便り」の最新号や会の案内書の配布。
4) 創設者大森絹子氏が出演したテレビ番組の紹介。
5) 希望の家が取り上げられた「SMAP×SMAP」の紹介。

今年で4回目の出展になります。他の団体との情報交換ができ、とても勉強になりました。毎年出展させていただきましたが、このたび担当者が、青年海外協力隊のエイズ対策でケニアに二年間、派遣されることになり、その間、お休みすることになります。3年後にまた帰ってこれたらと思います。その間は「てのひら～人身売買に立ち向かう会～」さんのスペースを少しお借りして、展示させていただく予定です。今後ともよろしくお願ひします。

連絡先：希望の家を支える会 事務局
〒882-0051宮崎県延岡市富美山町338-48上野方
代表 上野敏子
E-mail: ueno-kt3@ma.wainet.ne.jp



子ども達の笑顔

◆Friends of God's Golden Acre Japan

テーマ：アフリ感ジャーニー届け！アフリカのチカラ

南アフリカにある孤児院の支援／アフリカに対する理解促進／HIV-AIDS啓発活動

内容：展示では南アフリカの子供たちの写真を展示。いわゆるアフリカの貧しさや悲惨さなどの「被害者像」ではなく、よりポジティブな「子ども達の笑顔」を展示したことで、固定概念からはずれた、新しいアフリカ像を提示することができ、ご好評もいただけた。アフリカとエイズというと、今回のテーマにあるような「他人ごと」と捉えてしまうことが多いので、今回の活動を通じてより身近に、より親近感を持つきっかけを作れていれば幸いである。いかにイシューを身近に持つていくことができるかは、想像力に拠るところが大きいので、アフリカやAIDSの課題に想いを馳せ、これからの活動の助けになっていれば、嬉しい限りである。

連絡先：Friends of God's Golden Acre Japan 津曲智明
〒223-0061 神奈川県横浜市港北区日吉3-9-9加藤ハイツ303
Tel: 090-5194-7709
E-mail: spacemantomo@hotmail.com



他人ごと？！

◆AIDSカスタネット倶楽部

当会は1980年代初頭から各種の人権抑圧、差別問題に関心を持って出版、映画上映などの取り組みを続けてきた「伝書鳩の(いえ)」により、エイズ問題独自の問題に関わる必要性を持って会が立ち上げられた。現在も患者への具体的な直接支援(遠隔過疎地への食糧支援、在宅援助)を細々と続けているとともに日本エイズ学会参加、各種情報交換、交流を続けている。

内容:今回5回目の参加。「ひとつの関わりに最低5年を維持すること」は問題意識を持って社会と関わる意味では重要なことだと考えて来た。今回も、たくさんの書物と当会のメイン活動である「エイズ在宅援助基金」作りの為のエイズメッセージカードの紹介、販売を行う。諸般の事情で当初の計画通りに事が進まず、土曜日曜の2日間だけの参加になるという準備不足、経費節約型の出展になってしまったこともあり、出展の成果は想像以上に悪かった。が、会場では、悪法至極な「改正臓器移植法」と廃止された「エイズ予防法」にかかる共通項、問題点について口頭開示できたことは今後の会の進行方向に大きな意味を持ったことと思う。他にも他団体のパネルに表示された「不特定多数の人とのセックス」が危険行為であるということへのデタラメや統計にある「同性間性的接触」なる言い方のレズビアン無視をどう考えるかも、静かに語り合う場になった。今回とても強く感じたのは、全体としての本当の問題点は、参加者の多寡ではなく、届いて行かなくてはならないエイズの問題の本質的なメッセージが、教育の場をはじめ、人の営みの日常茶飯から隔たったままで空中に漂っているという状況だと思う。何とかしなければという思い一入である。

連絡先: AIDSカスタネット倶楽部(安藤)

〒466 昭和郵便局私書箱94号 Fax: 052-835-6444

E-mail: hataraki-kakeru@softbank.ne.jp

◆株式会社ケーシーズ

主に10代を対象とした性教育関連のコンテンツを企画制作しています。

内容:当社のオリジナルコンテンツ「HIV／エイズってなに？」全3巻と小学生低学年向けの性教育コンテンツ「じぶんのからだ」を紹介しました。

感想:今回で5回目の出展です。

イベントの印象として、以前はこの分野の専門家の方が多かったですが、一般の方の来場が増えているように感じました。いいことだと思います。それといつもながら、ボランティアの方々の頑張りには感銘をうけます。一生懸命活動している姿には教えられるモノも多いな～と感じます。16年間に渡るイベント開催で、ボランティアの方々の力がとても大きかったと思います。また、若い方の参加者が以前よりも多く感じました。講師の方も若返ったような気がします。次世代にむかって、継続されていく可能性を感じますね。来年もぜひ参加したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

連絡先: 株式会社ケーシーズ

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル3F

Tel: 0155-25-8739 Fax: 0155-21-7800

E-mail: masayasu@tokachi.co.jp

URL: <http://www.tokachi.co.jp/kcs/>



何とかしなければ
という思い



◆てのひら～人身売買に立ち向かう会

人身売買問題の現状を一人でも多くの人と共に考え、この人権侵害を放置しない社会の実現をめざしています。

内容:今年のフォーラムでは、日本における人身売買問題の啓発を行うために、いくつかのデータに基づく展示を行いました。日本で人身売買被害に遭っている被害者の推移やなぜ被害が生まれてしまうのか、その他人身売買被害を取り巻く様々な状況について6枚のパネルを用いて展示を行いました。また、タイで人身売買の被害をなくすために活動している北タイのあるNGOの紹介も行い、そのNGOの女性グループが生産している手織り物製品の販売も行いました。来場者は年齢層の幅が広がったのですが、どの年齢層にも私たちの展示は関心を寄せて頂けたという印象を持ちます。女性グループが作る製品の購入はされな

くとも、展示は本当に丁寧に一つ一つご覧頂きました。製品の購入はおまけのような存在でしたので、むしろ来場して下さった方が展示に強い関心を寄せただけは、私たち活動の本来の目的である啓発活動が達成されたことになり、本当によかったと思っています。

連絡先: てのひら～人身売買に立ち向かう会

〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町149-4 緑郵便局 留

Tel: 050-1445-6947 Fax: 020-4624-7480 E-mail: tenohira_ycatip@hotmail.co.jp

※人身売買問題を通して人権について考えるワークショップの依頼大募集

ご依頼は当会URLより→http://www.geocities.jp/tenohira_trafficking/

◆チョークディーの会

タイ東北部の女性達(エイズにかかる人がとても多い)が出稼ぎに行かないで地元に残り、伝統のある染め、織を守って現金収入を得る事ができる様に、その作品の販売を行いエイズで親を亡くした子供達のサポートを行っているタイ国NGOのラックスタイ財団のプロジェクト『コドモファンド』への協力活動を行っています。

内容:今年も織物に興味を持って下さる方との出会いが沢山有り、タイの女性達が一所懸命織った作品が沢山売れました。彼女たちの大きな喜び・励みになる事と思います。舞岡高校の茶道部の方達のとても元気な「お茶如何ですか」の呼びかけで沢山の方が来店なさっていました。フォーラムNo.1の好感を感じました。熱心な生徒さんの心の中に、今年のフォーラムを通して「エイズ」について学んだ事が将来の色々な場面で思い出される事を望みます。

4年間の参加を通し、販売のアピールだけでなく、プログラムに参加してお話を聞くことが出来ました。素晴らしいパネラーの方々の一つ一つの言葉が、ジワーと心の中に入り込んでくる感動を覚えました。若い人達がもっと沢山参加して下さいを希望して、来年はエイズ文化フォーラムの強風を鎌倉に吹き込みたいと思います。

連絡先: チョークディーの会 山田 美恵子

〒248-0036 鎌倉市手広4-13-6

E-mail: mieno.yamada.33616@kamakuranet.ne.jp



ジワーと心の中に入り込んでくる感動



◆神奈川県立舞岡高等学校茶道部「一杯のお茶から」

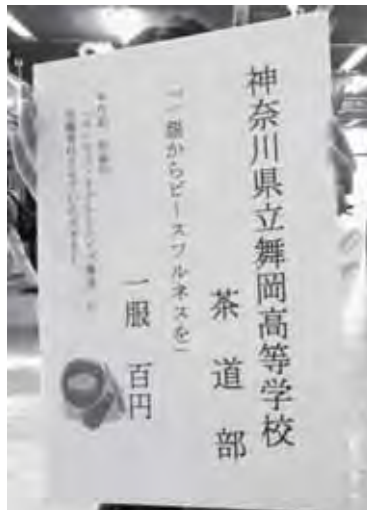
内容: 呈茶 入場者 160名

8月7日(金)、8日(土)の2日間、展示会場にて、抹茶とお菓子を提供させていただきました。多くの方々に入場していただき、大変感謝しております。「上手にお茶を点てられていますね」「おいしいお茶とお菓子で一息つきました」「ごちそうさまでした」など、温かい言葉をたくさんかけていただきました。生徒たちも、日ごろの練習の成果を発揮し、それぞれ今後の自信につながったのではないかと考えております。また、呈茶の間を利用して、AIDSやHIV、性感染症などについてのさまざまなプログラムに参加しました。生徒一人ひとりが積極的に学び、考えることのできるよい機会になったと思います。なお、利益の5,750円は『(財)日本ユニセフ協会・ユニセフ募金』へ全額寄付させていただきました。関係の皆様のご尽力とご配慮に深く感謝いたしております。

連絡先: 神奈川県立舞岡高等学校 茶道部
顧問 小倉奈津子
〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡3-36-1
Tel 045-823-8761



ごちそうさまでした



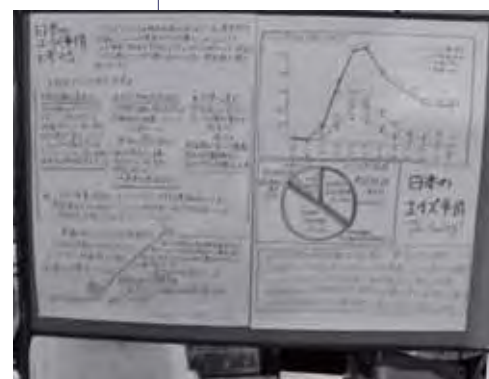
◆ユニセフ支援市民団体ふれきしぶる

世界中の子供達が今より少しでも幸せになりますように。ふれきしぶるは1997年に創立された横浜市中区で活動するユニセフ支援活動をしているグループです。講演会・写真展・募金・勉強会・各種イベントへの参加を通じてユニセフを支援しています。

展示テーマ:「日本のエイズ事情を考える」

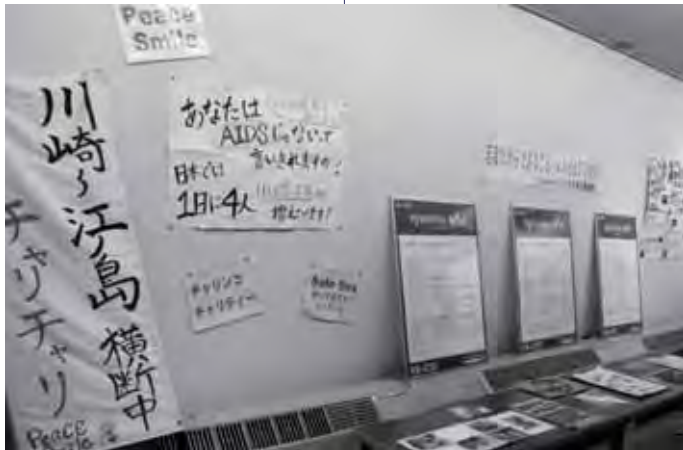
- 内容: ①HIV/AIDSの感染が広がる原因と背景
- ②HIV/AIDS感染者年齢別動向
- ③HIV/AIDS感染経路別動向について、グラフを使って説明しました。

連絡先: ユニセフ支援市民団体 ふれきしぶる 事務局長 吉田誠
Tel: 080-5028-4443 E-mail: fureki_ml@yahoo.co.jp



◆神奈川県保健福祉部健康増進課 夏のレッドリボン月間展示

保健福祉部健康増進課は、神奈川県エイズ対策推進協議会の事務局として、AIDS文化フォーラムin横浜に合わせ夏のレッドリボン月間イベントを8月4日(火)～9日(日)に展開し、プログラムを提供しました。



①wAds (World AIDS Day Series) 2009 実行委員会 「若者だからできること wAds2009」

「World AIDS Day Series」(wAds:ワッズ)とは、12月1日の世界エイズデーに合わせて、約2ヶ月間にわたり実施されるHIV/エイズ全国意識喚起キャンペーンです。wAdsのミッションは、「日本のHIV/エイズをめぐる現状を、若者から変えていくこと」です。

内容:2009AIDS文化フォーラム in 横浜では、今までwAdsに関わって下さった方々、団体の活動紹介を行いました。藍紅の方が個人的に撮った写真、ユーフォリアの活動紹介DVD、ピーススマイルのアルバムや幟などを貸していた

だき、wAds独自のものとしてはオリジナルリーフレット入りのコンドームなどのグッズや報告書、手記を記載したパネルを展示しました。

藍紅の方の写真は実際にアフリカで撮られたもので、ありのままのアフリカを表しており、来場者の方の目をひきました。ユーフォリアのDVDは毎年訪れているインドネシアの現状とユーフォリアの活動を伝える素晴らしいもので、立ち止まって何回も見直して行かれる方もいました。ピーススマイルのアルバムはチャリチャリ(チャリンコチャリティー)のこれまでの歩みを紹介しており、幟は存在感たっぷりでした。このように様々な形でいろんな方向からエイズに取り組む方々、団体を紹介しました。

連絡先: wAds URL: <http://www.wadsjapan.net/>

陽性者の綴った手記

②エイズ予防のための戦略研究MSM首都圏グループ 「REAL Living Together」～ありのままの現実

内容:戦略研究が作製してきた資料は、HIV感染症の現状に即した最新の情報をわかりやすく伝えること、陽性者の綴った手記を用いてHIVが身近な存在である現状を伝えること、受け取る対象の多様性に合わせた内容であること、デザイン性に富んだものであること、等に配慮して作製しています。

主な展示物は以下の通りです。

REAL: HIV陽性者の手記と共に、HIV感染についてのup to dateな情報やリソースを集めた冊子

FACE TO REAL: キース・ヘリング財団の協力の基に、HIV感染の基本知識をキースのイラストと一緒に掲載したパンフレット。当日は同内容のポスターの展示も行った。

Ready Go! 聴覚障がいを抱えるゲイを対象に、HIV感染の基本情報を手話を用いて伝えた冊子

ボクライフ: 若年のゲイを対象に、セクシュアリティやゲイライフと共にHIV感染症について解説した冊子

This is hope: HIV感染と依存症との関わりの視点から、様々な依存を抱えた人たちの手記と依存症についてのリソースを紹介した冊子

HAVE A NICE SEXI: HIV感染のおこるメカニズムから、セーフターセックスの方法について解説した冊子

資料についての問い合わせ先:

コミュニティセンターakta Tel: 03-3226-8998 E-mail: info@rainbowring.org 担当: 荒木

③ **かながわレインボーセンターSHIP**
Presence2009-セクシャルマイノリティのメッセージ展-



連絡先: かながわレインボーセンターSHIP Tel: 045-306-6769
E-mail: ship@y-cru.com 担当:星野

④ **県内のエイズ関連情報**
(統計、検査情報、啓発媒体) 等紹介

連絡先: 神奈川県保健福祉部健康増進課
〒231-8588 神奈川県横浜市中区日本大通1
Tel: 045-210-4793 E-mail: kenzou-kansen@pref.kanagawa.jp
URL: <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kenkou/kansensyou/hiv-topics.html>

◆ **特定非営利活動法人 日本ハビタット協会**

世界中の人々が安心して安全に暮らすことができるように活動する国連ハビタットを支援し、広報や募金等を実施。

テーマ: AIDS孤児に安全な家と水を

内容: アフリカのAIDS孤児の現状を写真やDVDで報告。

当団体の募金箱に寄せられた外貨コインを参加者とともに分別し、アフリカのAIDS孤児の現状を参加者に説明するワークショップを常時開催。アフリカのAIDS孤児を含めて、当団体が実施する支援事業の報告が記載されたニューズレターの配布。アフリカのAIDS感染者およびその家族が作成した人形の販売

感想:

- 気軽に誰にでも参加できるワークショップであったため、毎日多くの来場者が参加し、作業をすすめながらAIDSの問題やAIDS孤児の現状について直接話をすることができた。
- アフリカのAIDS孤児の現状を絵本に作成し、DVDを常時上映したが、来場者がゆっくりと見て下さり、AIDSへの理解を深めることに役立った。
- アフリカのAIDS感染者及びその家族が作成した人形を販売することで、彼らの支援に役立てることができた。
- 募金箱によせられる外貨コインを来場者に分別していただいたことにより、募金を有効に活用できるようになった。

連絡先: 日本ハビタット協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-12 ふくおか会館1階

Tel: 03-3512-0355 Fax: 03-3612-0355

E-mail: info@habitat.or.jp URL: <http://www.habitat.or.jp>



AIDS孤児に
安全な家と水を

◆ (財) 日本ユニセフ協会神奈川県支部

募金活動や啓発活動をとおして、世界の子どもたちの命と健康を守るunicefの支援を行っています。unicefは子どもたちをHIV/エイズの危機から守る活動を世界規模で展開しています。

タイトル:「HIV・エイズの危機と子どもたち」写真展示

内容:アジアのHIV・エイズの状況を撮影し続けている写真家、後藤勝氏の写真パネルを展示しました。その他、ブースでは、「エイズは大人だけの問題じゃない」という振込票付きチラシを配布し、エイズ緊急募金を募りました。また、半額がユニセフ募金となるユニセフ・グッズの頒布をしました。始めて参加するボランティアさんは、休憩時間に他団体の活動を見学し、「エイズ」という、身近にあまり触れる機会のないテーマに集まった多くの団体の展示やセミナーなども興味深いものがあつたようです。



連絡先: (財) 日本ユニセフ協会神奈川県支部
〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-6-23
金子第2ビル3F
Tel: 045-473-1144 / Fax: 045-473-1143
E-mail: sibu@unicef-kanagawa.jp

自立していく
ということを目指して

◆ 特定非営利活動法人NGOアフリカ友の会

NGOアフリカ友の会は最貧国のひとつと言われている中央アフリカ共和国にて医療活動、生活弱者のための支援をしている団体です。

内容:今年も現地の婦人たちの作ったエプロンドレスとバンダナを中心に展示販売を行いました。働く場のない病弱の婦人たち(なかには裁縫士として経験のある病弱の男性も入っていますが)にとって、週3回、現地事務所の一室で手回しミシン、足踏みミシンを使つての洋裁は生きる糧を得るための本当に大切な場なのです。鮮やかな模様のアフリカの布地は元来アフリカの人々の持つ明るさ、たくましい生命力などを感じさせてくれ、たいへん魅力的なものです。私たちの団体は単に与える一方の援助でなく、いかにしたら彼らの自立がはかれるかという観点で考えています。洋裁教室、マイクロクレジット(小額の無担保事業資金貸付制度)などにより彼らが自分たちの生活を立ち上げ、自立していくことを目指しています。マイクロクレジットでは、石鹸作り、薪売り、売店、食堂、行商など個人、家族でできる商売を行い、今年はその制度を利用する人は約100人までにになりました。



連絡先: NGOアフリカ友の会
〒115-0045 東京都北区赤羽2-1-12
Tel: 03-3909-7114 Fax: 03-3900-4698
E-mail: africa9301@circus.ocn.ne.jp
URL: <http://www4.ocn.ne.jp/~africa93/>

フォーラム全体集計表

◆2009年全体集計表

1. AIDS文化フォーラム in 横浜を何で知りましたか？(複数回答あり)

	8/7(金)	8/8(土)	8/9(日)	合計	割合(%)
新聞	0	3	5	8	1
ホームページ	59	108	48	215	22
ポスター	5	5	8	18	2
DM	6	20	4	30	3
チラシ	53	56	17	126	13
知り合い	50	123	72	245	25
その他	85	130	61	276	28
無記入	16	30	16	62	6
計	274	475	231	980	100

2.参加者年齢

	8/7(金)	8/8(土)	8/9(日)	合計	割合(%)
10代	25	43	16	84	10
20代	49	130	57	236	28
30代	44	63	47	154	18
40代	58	81	42	181	21
50代	28	56	24	108	13
60代以上	15	37	14	66	8
不明	8	6	7	21	2
計	227	416	207	850	100

3.参加者職業等

	8/7(金)	8/8(土)	8/9(日)	合計	割合(%)
保健医療関係	73	104	59	236	27
教育関係	48	65	29	142	16
学生	41	85	36	162	19
NGO/NPO	15	31	15	61	7
その他	31	77	40	148	17
不明	24	61	33	118	14
計	232	423	212	867	100



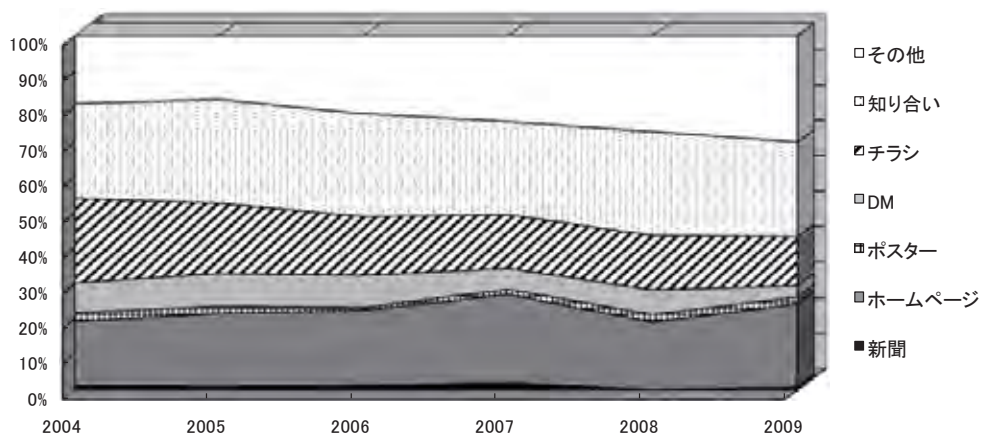
◆全体集計推移（2004～2009）

1. AIDS文化フォーラム in 横浜を何で知りましたか？（複数回答あり） 図①参照

	2004	2005	2006	2007	2008	2009
新聞	10	10	11	18	2	8
ホームページ	153	213	180	238	193	215
ポスター	21	21	7	13	22	18
DM	71	96	77	57	71	30
チラシ	201	204	140	143	156	126
知り合い	226	301	246	249	299	245
その他	162	186	187	230	276	276
計	844	1031	848	948	749	918



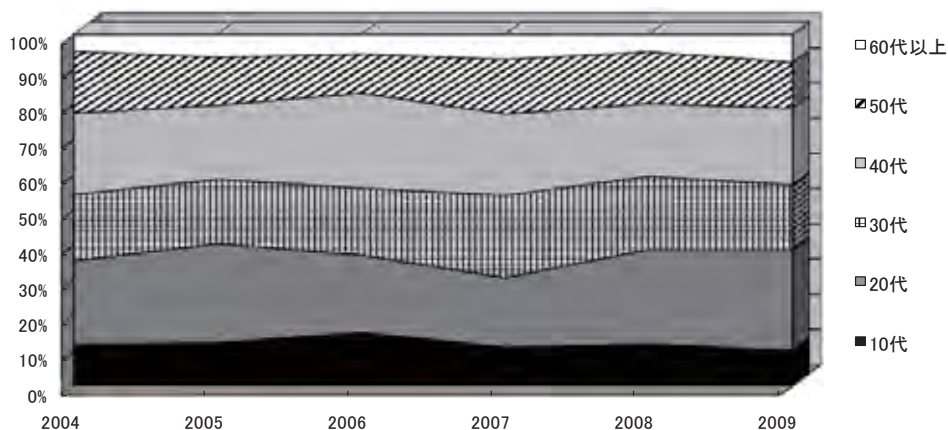
図①



2. 年齢

	2004	2005	2006	2007	2008	2009
10代	86	112	112	98	113	84
20代	174	258	162	176	254	236
30代	138	167	140	208	197	154
40代	169	193	199	206	196	181
50代	130	124	82	138	139	108
60代以上	35	60	41	64	47	66
計	732	914	736	890	946	829

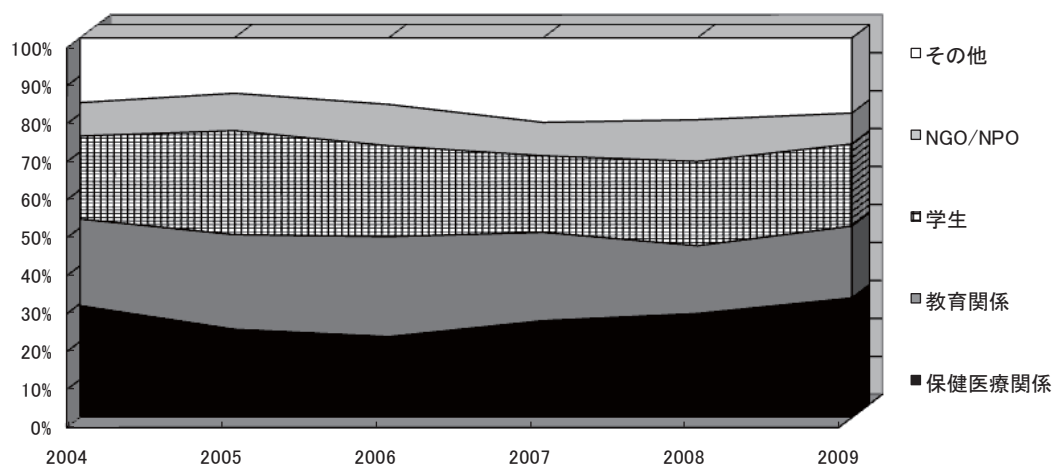
図②



3. 職業等

	2004	2005	2006	2007	2008	2009
保健医療関係	201	203	139	209	242	236
教育関係	156	218	172	191	158	142
学生	149	239	156	165	196	162
NGO/NPO	60	86	71	72	97	61
その他	116	127	114	182	190	148
計	682	873	652	819	883	749

図③



AIDS文化フォーラム in 横浜 16年の歩みー開催概要と経緯ー

AIDS文化フォーラムは

「感染経路を問わず、AIDSとそれを取り巻く状況を、多様に、文化の視点で考えていく」
を特徴に16年歩み続けています。

組織委員会:エイズに取り組む団体で構成し、フォーラムの社会的責任を負う

運営委員会:HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が
個人として参画

事務局:横浜YMCA

ボランティア:会場運営に市民ボランティアの公募ー小学生から70歳代までの幅広い参加ー
かながわエイズボランティア育成講座の受講生のフィールドワーク
08年より会場ボランティアからサポートスタッフに改称。



開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題/社会	来場者傾向
94	1	市民と海外NGOによるAIDS会議	58	40	神奈川県 国際交流協会	4,305	8日間	市民のエイズ会議 国際AIDS会議開催	地元市民 中心
95	2	ともに生きる	31	26		2,200		母親が語る薬害エイズ 薬害報道の増加	
96	3	ともに生きるから連帯へ	34	28		1,600		性風俗とAIDS 薬害/薬害和解	
97	4	未来へのつどい	72	56	かながわ県民センター	4,607	3日間	映画・秋桜 カクテル療法	全国から 参加
98	5	エンパワーメント～ 自立と協働に向けて	76	50		5,694		TV・神様もう少しだけ 障害者認定	
99	6	いまを生きる	70	47		3,240		複数作家の写真展 ピル解禁・感染症予防法	
00	7	いま一人ひとりができること	64	49		3,801		女性プログラム 女性用コンドーム・薬物乱用	医療・教育 の 専門職増加
01	8	いま一人ひとりができること	72	52		3,946		バリアについて考える ハンセン病に学ぶ	
02	9	つながるつながる	81	56		4,808		国際NGO・国際神戸会議 SARS	国際NGO等 幅広く拡大
03	10	AIDSこれまでの10年、 これからの10年	74	55		4,624		10年の振り返り 国際エイズ会議の延期	
04	11	いのち ～市民が続けるAIDSへの取組み	83	66		6,031		若者の参加 国際エイズ・バンコク会議	
05	12	つながる空間	74	60		5,509		アジア太平洋地区エイズ・ 神戸会議	文化的 側面からの アプローチ 増加
06	13	つながる空間 ～Living Together～	72	56		3,880		第20回日本エイズ学会 (池上千寿子会長)	
07	14	つながる	71	56	3,689	国会議員川田龍平氏来場 かながわレインボーセンターSHIPが 横浜西口OPEN			
08	15	つながる ～いま、私にできること～	75	60	4,170	アフリカ会議横浜で開催			
09	16	他人ごと?!	55	54		3,547	新型インフルエンザ 政権交代		

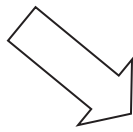
市民による市民に開かれた手弁当フォーラム!

高額な参加費がかかる医療関係者中心の第10回国際エイズ会議(横浜)に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で始めました。



■第1回(1994年) : 社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得ました。

■第2回(1995年)~第3回(1996年) : 「第1回での成果を一過性のものに終わらせることなく、継続して欲しい」という全国のAIDSに関わるNGOや団体からの強い要望があり開催を継続してきましたが、社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少など様々な課題が明らかになりました。



新たな工夫と挑戦へ! ~量から質へのシフト

徹底した評価・検証の中で、より積極的な取り組みを行いました。会場をかねがね県民センターへ変更したことに加え、運営体制の見直し、そして参加者のニーズにあうようにプログラムの充実化を図りました。

■第4回(1997年) : 「PWA (People with AIDS) のネットワーク」をテーマとし、PWA5名がプレゼンターとなり、ネットワークを組むために必要な課題と問題について議論するなど、感染者の方々の積極的な協力がありました。



■第5回(1998年) : HIV/AIDSの治療薬が増え、HIV感染は慢性病になったと言われはじめました。テレビドラマ「神様、もう少しだけ」がヒットし、社会的関心が一気に高まり、主演の深田恭子さんも来場しトークを行いました。

■第6回(1999年) : 1日のコマ設定を4コマから3コマに減らしたことで、各コマとも落ち着いた議論と交流が可能となりました。

専門職来場者の増加~継続することの意味を確認

従来からの「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という発想を超えて、「市民側から専門職に情報交換の場と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転してきました。全国の医療や教育の専門家からも期待される横浜の夏の恒例行事として定着しました。

■第7回(2000年) : 恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんとタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ピル、と「女性」をテーマとしたプログラムが多く組まれました。



■第8回(2001年) : パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIVに感染している桜屋伝衛門さんのトークを通して「障害」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。

■第9回(2002年) : 自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話に多くの参加者が勇気付けられる内容となりました。



10年の振り返りと新たな取り組み~若者へのアプローチ強化

先進国で唯一感染者が増え続ける日本の状況を憂慮し、若者へのアプローチを強化しました。若者主体の企画や演劇・映像・音楽・アートを活用した、若者を引きつける会場運営を心がけた結果、多くの来場者を迎えることができました。



■第10回(2003年) : 脚本家の早坂暁さんが「HIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら」という設定で、俳優の鳥丸せつ子さんと参加者と共にドラマストーリーを考えました。また、若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さん(夜回り先生)の講演に多くの参加者が集まり、関心の高さがみられました。

■第11回(2004年) : 飯島愛さんを迎えて、エイズ・愛・セックスについてのトークショーを行いました。愛さんの明るいキャラクターと会場参加型の企画に大いに盛り上がりしました。

■第12回(2005年) : 飯島愛さんと北山翔子さんがそれぞれの実体験をもとに人を愛すること、そして生きることをテーマに語られた言葉は、来場者の心に深く響きました。また、会場ボランティア数は110名と過去最高でした。

つながる空間、本音で語る対話の場へ

ネットワークを広げ連携を深めるために、HIV/AIDSに関する様々な活動に携わる団体・個人との対話の場が増えました。その中で宗教や立場・活動・体験は違っても、豊かに共に生きることを教えられ、「つながる」ことの大切さを確認することができました。



■第13回(2006年) : 「エイズと宗教を語る」では、仏教、キリスト教、HIV陽性者の3者がそれぞれの立場から違いを超えて「つながる」ことの大切さを語りあいました。また、参加者から発表者となった医大生の遠見才希子さんがPeer講座を担当するなど若者の活躍がみられました。

■第14回(2007年) : 3名のHIV(+)の当事者がそれぞれの主治医とともに、患者と医療者の関係性(パートナーシップ)をテーマに語り合いました。長年にわたるエイズ医療に共に取り組むためにはコミュニケーションやカウンセリングを通して信頼関係を構築することが重要であると訴えました。

つながることで「他人ごと意識」の解消へ

■第15回(2008年) : 近年高まっている教育関係のニーズに応え15もの教育を視点としたプログラムが開催されました。中でも学校でのエイズ教育を念頭においたセッションをエイズ教育シリーズと紹介し、最終日には「徹底討論~エイズ教育に求められるものは何か」を開催しエイズ教育に関わる来場者と本音で意見を交わしました。

■第16回(2009年) : 正しい知識だけでは予防ができません。HIV/AIDSを他人事(ひとごと)と思っていた当事者たちの声に耳を傾け、医療関係者が、教育関係者が、宗教関係者が、そして参加者の一人ひとりがつながる中で、自分自身の課題と考える第一歩を踏み出しました。

このつながりの中で出会えた素敵な人たちに感謝!!





くらし・家庭



元気の素

市民の手による市民のための「エイズ文化フォーラム in 横浜」に、ずっとかわってききました。このフォーラムのいいところは、考え方の違いがあっても存在を認め合いながらエイズについて考えようよ、という場だということです。

「宗教とエイズを考える」という一見風変わりなプログラムも4回目を迎えます。「生きてるって、死ぬってどういうこと？」と日頃から一番考えているのは実は宗教者。宗派によって性にかんする考え方は違いますが、エイズという問題が浮上してから、命と性

多様な人とのつながりこそ

が密接にかかわるようになってきました。今回はいろいろな立場の宗教者から、生きることに学ばせていただきます。

(最) 近痛切に感じるの



泌尿器科医 岩室 紳也さん

は、知識だけでは不十分なのではないかということ。そういうつながりを作ってくれるのもフォーラムの魅力ですね。人へへこませるのも人だけ

ど、はいあがらせてくれるのも人。私の元気の素も、多様な人とのつながりから生まれています。

医療が進歩して、「今はいい薬があるから」とHIV感染について安易に考えるむきもあります。1日1回飲めばいい薬にも強い副作用がある。しかも耐性ウイルスが出ないように、飲み忘れていいのは20回に

とスローガンのように言いがちですが、それでは若い人たちには響かない。誰かの経験談を始めると目がこちらに向いてくるのがわかります。先日亡くなった飯島愛さんも、自分の体験を本音で語ってくれる素敵なお人でした。子どもを産んだ時の話でもいいし、恋愛の失敗談でもいい。一人一人が一生懸命生きている姿を

1回だけ。その薬代も検査費用も払えず、医療関係者に見守られることもなく自暴自棄になり、人にならなってしまうこともあるんです。安心して医療にかかれな社会が、HIVの感染拡大を作っています。

(お) とは「命を大切にしろ」

感染した人たちの治療にあたりながら、力不足を痛感することもあります。でも「人間、過去を問うだけでは生きられない。これからがんばって生きていこう」と言うのが医師の役割だと先陣医師に言われた。この言葉を肝に銘じて診療にあたりたいですね。

どう見せるかではないでしょうか。

いむろ しんや 1955年京都生まれ。地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長、神奈川県厚木市立病院泌尿器科勤務。『思春期の性 いま、何を、どう伝えるか』(大修館書店) など。フォーラム(8月7日~9日)の詳細は <http://www.yokohamaymca.org/AIDS>

聞き手 堤 由紀子
写真 縣 章彦



2009 AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち

■主催 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

HIV/AIDS問題に取り組む団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラム in 横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

構成団体:

- ◇(財)横浜YMCA 田口努 (組織委員長)
- ◇横浜商工会議所 エイズ問題対策懇談会 古田正一
- ◇(財)横浜YWCA 小阪仁美
- ◇(社福)横浜いのちの電話 榊原高尋
- ◇カトリック横浜教区 古川勉
- ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 辻剛

■共催 神奈川県

毎年、共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会にも列席し、関係者への参加依頼や広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

担当:保健福祉部健康増進課 鈴木吉明 川上亮 八木下しのぶ 北村祐輔 中西亮太

■協力

- ◇飲料:(株)キリンビバレッジ、(株)ジャパンビバレッジ
- ◇寄付:鳥居薬品 株式会社、アボット ジャパン 株式会社、萬有製薬 株式会社



■後援

- ◇横浜市健康福祉局◇川崎市◇横須賀市 ◇相模原市◇藤沢市
- ◇横浜商工会議所◇神奈川県教育委員会 ◇財団法人エイズ予防財団
- ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

■企画運営 AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

フォーラムを実質的に運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト、大学生、共催・後援(行政)の担当者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている人など、色々な立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通し活動しています。



伊東和子 猪谷亜子 岩室紳也 岩本雅子 遠見才希子
 大江浩 大野真輝 岡島龍彦 糟谷潤 金井多恵
 多田由香里 千代木ひかる 長澤勲 島山雅行 彦根倫子
 母袋秀典 吉永陽子 山田雅子 矢部尚美 渡辺誠二
 渡會睦子

■サポートスタッフ(会場ボランティア)

最年少は13歳(中学2年生)から社会人までの幅広い世代がサポートスタッフとしてフォーラム当日の会場運営を支えてくださいました。

井筒幸乃 磯崎直樹 大塚征貴 熊沢祐紀 小室温香 近藤未希 齋藤志津江 斉藤 富江 鈴木一穂 高野沙織
 中島大輔 林理子 山形友 古川英司 本田愛 長島淑恵 茂木八好代 森住孝明 湯上和美 吉岡咲紀
 吉永さやか 吉永千尋 吉川町子 梁凱傑 他 40名 ありがとうございます！

■事務局 横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。

16年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

担当:横浜YMCA 国際・地域事業 高村文子 佐藤絵里子

「AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員会規約

1. 名称

この会は「AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会」と称する。

(以下、「組織委員会」と略す)

2. 趣旨

1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議を機に、市民の手による全ての人に開かれた場として「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催してまいりました。回を重ねていく中で、全国各地でHIV/AIDSに取り組む各団体・個人の発表・交流の場として、また多くの市民、特に若い人々に向けての啓発の場として定着してまいりました。組織委員会は、このフォーラムの主催者として、偏見や差別をなくし、制度や利害の壁を乗り越えて、いつの時代にも、だれもが一人の人間としての尊厳を保ち、共に生きていく世界を築く事を目指して、市民の手による、市民のための、すべての人に開かれた集いを開催します。

3. 目的

- 1) 広く市民に開かれたフォーラムとする。
- 2) 若い世代、特に学生の参加を期待して、工夫する。
- 3) すべてがボランティアによる、市民の手による、市民のための、手弁当型のフォーラムとする。
- 4) AIDSボランティアと市民の交流の機会とする。
- 5) AIDSに日ごろから関係する団体やグループがフォーラムの進行をリードする。
- 6) AIDS関係団体、グループのネットワーク形成・交流の機会とする。
- 7) AIDSに関する多面的な啓発活動を行う。
- 8) AIDSについて、医学面や政策面のみではなく、文化面から積極的に捉える。
- 9) AIDSへの様々な取り組みの中で、一人ひとりが共に生き、連帯し、未来への希望をつなぐために力をつける(エンパワーメント)集いとする。

4. 構成

組織委員会は、エイズ問題に関心を持つ諸団体の代表者で組織する。

5. 委員長

委員長は、組織委員会の中から互選により選出し、組織委員会を代表する。

6. 組織委員会の開催

組織委員会は年4回、委員長の招集により開催する。また、必要に応じて委員長が必要と認めた場合に開催することができる。

7. 組織委員会の役割

「AIDS文化フォーラム in 横浜」開催の主催者となり、このフォーラム開催に関して最終責任を負う。

8. 運営委員会の設置

組織委員会の下に運営委員会を設置し、フォーラムの企画運営を委託する。組織委員会は運営委員会の働きを監督、支援する。運営委員は、HIV/AIDS問題及びフォーラムに関わるボランティアメンバーの中から選出する。

9. 事務局の設置と役割

組織委員会の事務局を横浜YMCA内に設置する。

常設の事務所を横浜YMCAに設置し、スタッフ2名が担当する。

事務局の役割は次の通りとする。

- 1) 組織委員会・運営委員会との連絡調整を行い、フォーラムの円滑な運営を助ける。
- 2) 予算を管理する。
- 3) 年度を越えての継続的な開催を補佐する。

10. 財政

フォーラムの運営に必要な経費は、組織委員会主催(運営委員会へ委嘱)の事業収益・寄付金、助成金及び組織委員会を構成する団体からのキーマネーをもってまかなうものとする。年度のキーマネーは、1団体につき20,000円とする。

11. 年度及び任期

組織委員会の年度は毎年4月から翌年3月までとする。

組織委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。なお次年度の委員については、当年度最終の委員会で選出する。

12. その他

この規約に定めるものの他、組織委員会の運営に関して必要な事項は組織委員会の議を経て定めるものとする。

(付則) この規約は、2008年4月7日から施行する。



2009 (第16回) AIDS文化フォーラム in 横浜 報告書

発行日： 2009年11月20日

発行者： AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

編集： AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

イラスト協力： もたいひでのり

連絡先： AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内

Tel： 045-662-3721

Fax： 045-651-0169

URL： <http://www.yokohamaymca.org/AIDS/index.htm>

次回予告

「第17回AIDS文化フォーラムin横浜」

期間： 2010年8月6日(金)～8日(日)

会場： かながわ県民センター

(横浜駅西口徒歩5分)



..... あなたも参加しませんか?

○参加団体として！

HIV/AIDSに関する視点をもった内容であれば、どなたでもご参加頂けます。講演・ワークショップ・展示・演劇など、発表の形式は自由で、例年多くの団体が教育・若者・国際・PWA/H・医療といった多様な切り口から発表を行っています。毎年4月頃からホームページやチラシ等でご案内しています。(※フォーラムの趣旨に沿わないと判断した場合は、お断りしています。このフォーラムにおける政治・宗教活動、営利目的、古い因習や差別的考えに基づいた活動はお断り致します。)

○サポートスタッフとして！

会場ボランティア改め「サポートスタッフ」として、フォーラムに参加しませんか？小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がフォーラムの開催を支えています。募集は毎年5月頃からホームページやチラシ等でご案内しています。

詳細はホームページをご覧ください！

URL： <http://www.yokohamaymca.org/AIDS/index.htm>